資料4

案

福知山市

まちづくり構想

ふくちズム

つながる。ひろがる。じぶんらしく。

「～イズム（ism）」は、

考え方・価値観・行動のスタイルを表す言葉です。

「ふくちズム」は、

「ふくち（福知山）」と、考え方や姿勢を表す
「イズム（ism）」を組み合わせた言葉です。

一人ひとりの「やってみたい」を力に、
みんなでよりよいまちをつくっていく。
そんなまちづくりの考え方を表しています。

目次-INDEX-

１　はじめに

（１）まちづくり構想の概要

（２）まちづくり構想の全体像

（３）これまでの取組

２　長期ビジョン

（１）2040年に向けて予想される社会の6つの変化

（２）2040年に向けて見えてきた暮らしの課題

（３）2040年に向けてめざす福知山市の将来像（政策分野）

３　みんなで取り組むまちづくり

（１）まちづくりの取組体系

（２）施策分野

（３）暮らしのまんなかプロジェクト

４　評価体制

（１）まちづくり構想を推進・評価していく体制

（２）毎年度のPDCAサイクル

1 はじめに

市民が「幸せを生きる」まちをめざして。

（1）まちづくり構想の概要
（2）まちづくり構想の全体像
（3）これまでの取組

（１）まちづくり構想の概要　～自治基本条例に基づく、市民と市が共につくる『幸せを生きる』まちをめざして～

❶ 自治基本条例の考え方

条例がめざす「幸せを生きる」まち

条例は、市民一人ひとりが福知山を誇りに思い、自ら考え、行動し、まちづくりに参画しながら「幸せを生きる」ことをめざしています。

まちづくり構想では、この理念を踏まえ、一人ひとりが尊重され、人とのつながりや生きがいを感じながら安心して自分らしく暮らせる状態であるウェルビーイングを大切にし、市民一人ひとりの幸せにつながるまちをめざします。

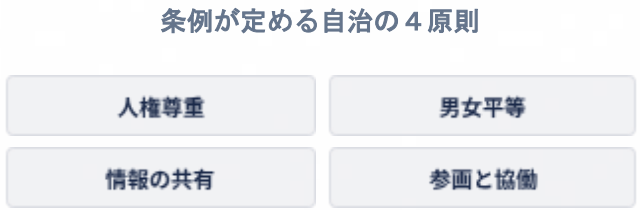
市民と市が共に進めるまちづくり

市民と市が信頼関係を育み、それぞれの役割と責任を果たしながら、共に考え、共につくり、共に実行することを基本としています。

❷ 条例第16条とまちづくり構想

条例第16条では、市長が総合的な市政運営の指針として基本的なまちづくりの構想を策定することを定めています。

まちづくり構想では、条例に定める「人権尊重」「男女平等」「情報の共有」「参画と協働」の自治の4原則を踏まえ、市民と市が共に福知山の未来を考え、共に取り組むまちづくりを進めます。



❸ 「まちづくり構想」の構成

プロセス重視の計画策定

市民と共に「考え」「つくり」「実行する」という共創のプロセスを最も大切にしています。

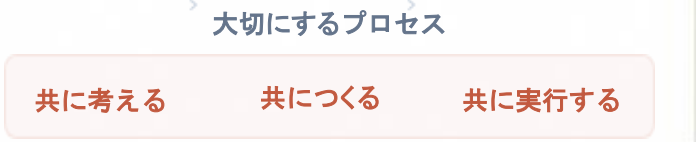
福知山市の将来像を共有する

2040年に向けて福知山市がめざす将来像を市民と市が共有し、まちづくりの共通の目標とします。

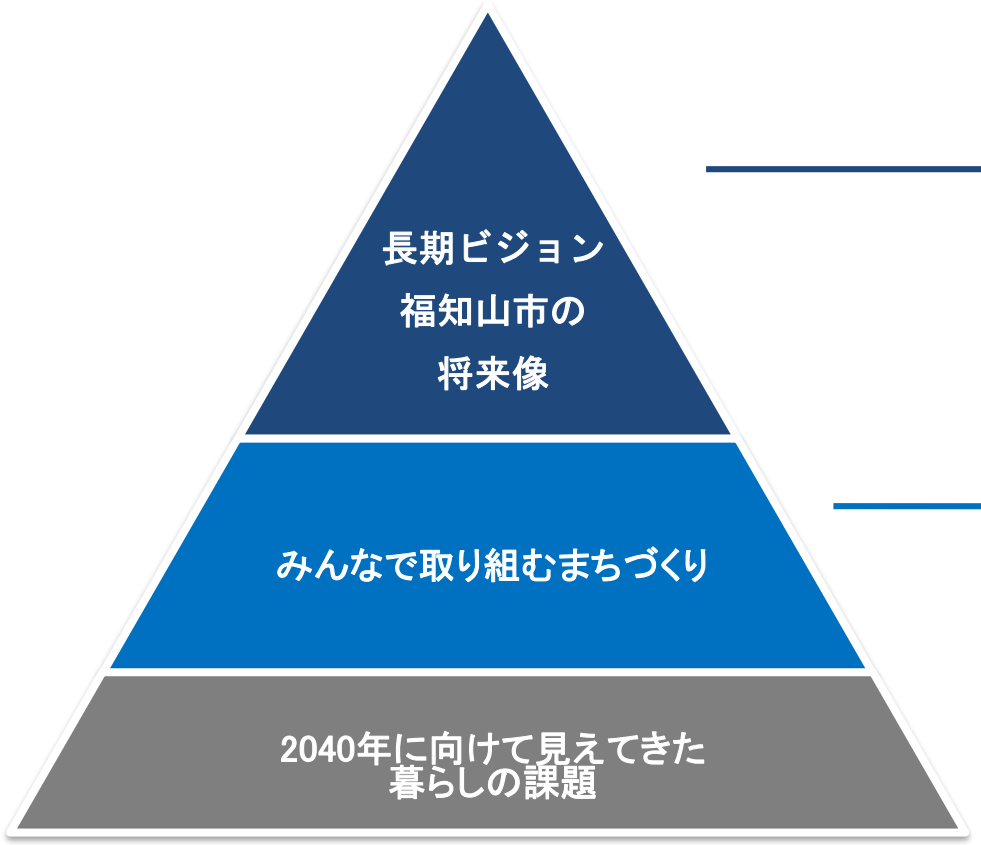
「市が取り組む内容」と「みんなで取り組む内容」の双方向から将来像の実現をめざします。

計画期間

2027(令和9)年度から2031(令和13)年度まで



(2)まちづくり構想の全体像



長期ビジョン（2040（令和22）年の将来像）

全国的に65歳以上の高齢者人口がピークを迎えると見込まれる約15年後の**2040（令和22）年**を見据え、**「地域の未来予測」、2040年市民会議の提言から見えてきた暮らしの課題を踏まえながら**、福知山市がめざす将来像を示します。

みんなで取り組むまちづくり

将来像の実現に向けて、分野ごとに**今後5年間（2027(令和9)年度～2031(令和13)年度)**に取り組む施策を示します。取組の進捗や成果を把握するため、**「成果指標」**を設定します。
将来像の実現には市の取組だけでなく、市民一人ひとりや地域、多様な法人・団体の主体的な行動が欠かせません。市民懇談会からの21の提案や自治基本条例推進委員会での議論を踏まえ、市民と市が共にまちづくりを進めます。

（3）これまでの取組

2020（令和2）年度～2021（令和3）年度

市民懇談会（全5回）の実施
　無作為抽出により選ばれた市民約100人が、2040年を見据えて議論。

市民懇談会からの21の提案
　市民懇談会での議論をもとに、市民一人ひとりや地域・団体等が主体的に取り組むまちづくりについて「市民から市民への提案」として集約。

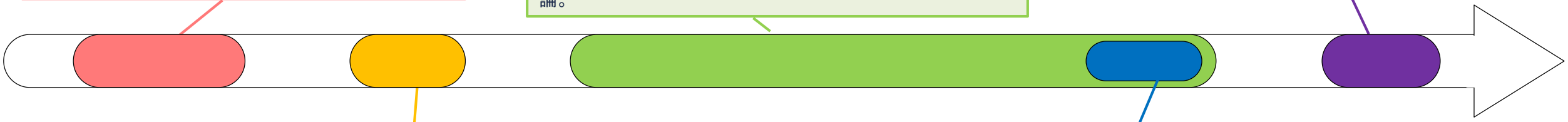
2022（令和4）年度～2025（令和7）年度

自治基本条例推進委員会での議論
　自治基本条例に基づき設置された委員会。2022（令和4）年度からは、「市民懇談会からの21の提案」の具体化に向けた検討を実施。

施策レビューの実施
　市が取り組むまちづくりに掲げる施策をより着実に進めていくため、市役所内部の評価に加え、各施策の取組状況や成果の達成状況を、外部有識者や市民とともにオープンな場で議論。

2026（令和8）年3月

福知山市2040くらしのビジョン
－2040年市民会議からの100の提言－
　2040年市民会議での議論やオンラインプラットフォーム「くらしのスケッチ」に寄せられた意見をもとに「100の提言」として集約。



2022（令和4年）3月

「市民と共に考え、市民と共につくり、市民と共に実行する」計画として「**まちづくり構想　福知山**」を策定。

まちづくり構想　福知山
　2040年に市民生活が置かれているリスクを想定し、市民が幸せを生きるための将来像を**長期ビジョン**とし、それを実現するため**市が取り組むまちづくり**と**市民が取り組むまちづくり**（21の提案）を推進する、総合的な市政運営の指針として策定。
【計画期間】
2022（令和4）年度から2026（令和8）年度まで

2025（令和7）年度

福知山市「地域の未来予測」の作成
　2040年を見据え、本市において将来起こりうる課題を客観的なデータをもとに予測し、市民と共有。

2040年市民会議（全5回）の実施
　無作為抽出により選ばれた市民約100人が「地域の未来予測」をもとに、2040年に生じ得る本市の変化、課題を想定し対応するための方向性について議論。

オンラインプラットフォームによる意見募集
　市民会議と連動し、会議に参加していない市民も自由にアイデアやコメントを投稿できるオンラインプラットフォーム「くらしのスケッチ」を開設し、意見を募集。

2 長期ビジョン

全国的に65歳以上の高齢者人口がピークを迎えると見込まれる約15年後の2040（令和22）年を見据え、将来の暮らしの課題を踏まえて、福知山市がめざす将来像を整理しました。

（1）2040年に向けて予想される社会の6つの変化
（2）2040年に向けて見えてきた暮らしの課題
（3）2040年に向けてめざす福知山市の将来像（政策分野）

（1）2040年に向けて予想される社会の6つの変化

高齢化と生産年齢人口の激減

約35%
総人口に占める65歳以上の比率（3人に1人が高齢者）

-1,300万人
2020～40年に減少する生産年齢人口（現役世代）

1971～1974年生まれの人口ボリュームゾーン（団塊ジュニア世代）がすべて65歳以上に達する一方、少子化の加速によって「支え手」の数がかつてない速度で消失。社会の縮小に対応する再設計が急務となります。

出典：国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口（令和５年推計）結果の概要」

急激な人口減少だけではなく、AIの進展などによりこれからの社会は大きく変化していきます。

① 深刻な担い手不足

物流・建設・製造・福祉・医療・地域活動など、さまざまな分野で担い手不足が進み、事業継続やサービスの維持が難しくなります。

② 医療・介護ニーズの変化

人口減少により医療需要の総量は減少が見込まれる一方、高齢化により医療・介護のニーズは多様化します。ビジネスケアラーの増加や医療・介護離職の拡大も懸念されます。

③ ライフスタイルや価値観の多様化

経済的不安や単身世帯の急増を背景に、結婚や出産に対する考え方を含め、暮らし方や価値観の多様化が広がります。

④ 国際化・国際情勢の変化

外国人住民の増加により、多文化共生の重要性が高まります。また、国際情勢や世界経済の変化は物価、エネルギー、物流、人材確保などを通じて、市民生活や地域産業にも影響します。

⑤ AIの進展

生成AIの高度化に加え、AIを搭載したロボット、自動運転、ドローンなど、現実空間で動作するフィジカルAIが進展し、暮らしや産業の現場で活用が広がっていきます。

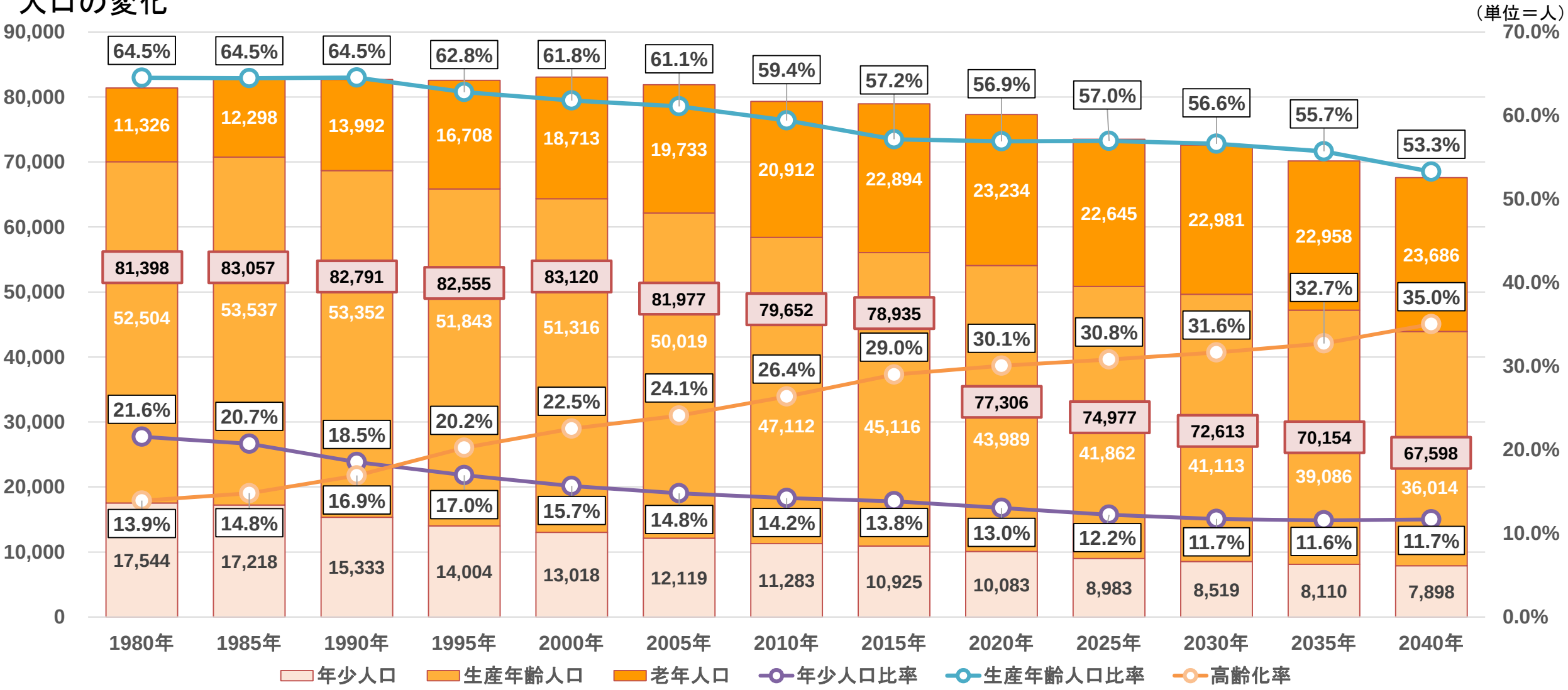
⑥ 公共施設とインフラの老朽化

老朽化への対応や維持管理が課題となり、気候変動への対応も求められる中で、行政サービスの維持が難しくなるおそれがあります。

2040（令和22）年の福知山市を取り巻く社会環境の変化（予測）

人口減少や少子高齢化の進行などにより、社会環境は大きく変化しています。2040（令和22）年に向けて私たちの暮らしに影響を及ぼすと考えられる課題を整理します。

人口の変化



出典：総務省「令和7年国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（令和5年推計）」
※2030（令和12）年以降のデータについては推計値。
※2010（平成22）年以前の人口は原数値、2015（平成27）～2025（令和7）年の人口は不詳補完値による。なお、2010（平成22）年以前の年齢３区分別の割合は、総人口から「年齢不詳」を除いて算出。

（2）2040年に向けて見えてきた暮らしの課題 2040年市民会議「100の提言」より集約

2025(令和7)年度に「地域の未来予測」をもとに将来の課題を検討した「2040年市民会議」では、将来の福知山市で起こり得る暮らしの課題について意見が出されました。市民会議の提言（福知山市2040くらしのビジョンー2040年市民会議からの100の提言ー）をもとに、2040年に向けて、特に意識すべき課題を6つに整理しました。

福知山市2040 くらしのビジョン ー100の提言ー

人口減少と社会変容が進む中、地域で実際に直面するであろう共通の社会課題を6つの主要分野から提言。

文化

- **継承機会の減少**：伝統･文化を受け継ぐ担い手や機会の減少
- **地域への愛着の低下**：地域とのつながりや誇りの希薄化
- **文化活動の縮小**：活動の場や文化施設の維持･活用の困難化

共生

- **つながりの希薄化**：地域や世代を越えた交流機会の減少
- **多文化共生の停滞**：外国人住民への言語や教育支援の不足
- **居場所･参加機会の減少**：安心して関われる場や機会の減少

学び

- **地域で育つ環境の低下**：人口減少による交流や学びの機会の減少
- **遊び、学べる居場所の不足**：こども･若者世代が、安心して遊び、学べる居場所の不足
- **学びの選択肢の減少**：こども・若者世代の学びの機会や選択肢の減少

仕事

- **生活利便性の低下**：商業環境の変化に伴う買い物環境や身近なサービスの衰退
- **若年層の市外流出**：若者や女性に選ばれる地元就職の選択肢不足
- **地域資源の活用不足**：農地や空家など地域資源が十分に活用されない状況

交通・インフラ

- **移動機能の低下**：公共交通の縮小や移動手段の不足
- **社会基盤の老朽化**：公共施設やインフラの更新需要の増大
- **公共サービスの持続性**：人口減少により施設やサービスの維持が難しくなる

安全

- **福祉ニーズの多様化**：高齢者･障害のある人･こども等、それぞれの困りごとの多様化
- **医療･介護の維持不安**：将来的な医療･介護体制の維持と、日々の健康づくりへの不安
- **災害･生活安全リスク**：災害や鳥獣被害、交通安全など、高まる日常の安全リスク

（3）2040年に向けてめざす福知山市の将来像（政策分野）

自治基本条例に定める自治の4原則と、2040年市民会議の提言から見えてきた暮らしの課題を踏まえ、福知山市がめざす将来像を6つに整理しました。

本構想では、これら6つの将来像を政策分野として位置づけ、人口減少の進行を可能な限り緩やかにする取組と、人口が減少する中でも、市民生活や地域コミュニティ、行政サービスを持続できる仕組みづくりをあわせて進めます。

また、人口減少が本市だけでなく、近隣地域全体で進む中、暮らしと経済を支える都市機能を持続していくためには、市域を越えた視点も重要です。本市が持つ広域交通の要衝としての特性を生かし、関係機関と連携しながら、広域交通ネットワークの維持・充実を図ります。あわせて、教育・研究、産業・雇用、商業、医療など、本市に集積する都市機能の維持・向上に取り組むとともに、これらの強みを生かして、市や民間など多様な主体による事業展開につなげ、雇用の創出と地域の活力向上を図ります。さらに、近隣自治体との適切な役割分担のもと、各自治体の特性を生かして連携し、京都府北部を中心とする近隣地域の暮らしと経済の持続的な発展に貢献します。

人口減少社会にあっても、まちの活力と暮らしの質を維持・向上させるため、市民と市が共に考え、共につくり、共に実行するまちづくりを進めます。

1 誰もがこのまちの一員として尊重し合う共生のまち

市民一人ひとりが互いを認め合い、多様な価値観や文化を尊重しながら、さまざまなつながりを大切にし、それぞれの暮らし方や働き方に応じた形でまちに関わることで、誰もが自分らしく暮らし、つながりや居場所を実感できる社会を育みます。

目標指標：自分がこのまちの一員として尊重され、居場所やつながりがあると感じる市民の割合

2 福知山の記憶と個性を未来につなぐまち

福知山の歴史や文化、スポーツ、豊かな地域資源を大切に守り育て、その魅力を市内外へ発信しながら、市民がまちへの誇りや愛着を持ち暮らし続けられる環境をつくります。

目標指標：福知山の歴史・文化・地域資源に誇りや愛着を感じる市民の割合

3 こども・若者が育ち、誰もが学び続けられるまち

安心してこどもを産み育てることができ、こどもや若者が健やかに成長し、誰もが学びや挑戦を通じて自らの可能性を広げられる環境を整えます。

目標指標：こども・若者が育ち、誰もが学びや挑戦を続けられるまちだと感じる市民の割合

4 暮らしを支える産業と、賑わいあふれる持続可能なまち

地域産業の持続的発展や、脱炭素の取組の充実を図り、多様な人材が活躍できる環境を整えることで、地域の活力が循環するまちづくりを進めます。

目標指標：福知山には働く場や挑戦の機会があり、地域に活力があると感じる市民の割合

（3）2040年に向けてめざす福知山市の将来像（政策分野）

5 人とまちをつなぐ 暮らしの基盤が整うまち

道路や河川、上下水道などのまちの基盤を適切に維持するとともに、利用しやすい公共交通の充実を図り、誰もが快適に移動し暮らせる環境を支えます。

目標指標：移動や生活に必要な都市基盤が整い、暮らしやすいと感じる市民の割合

6 いのちと暮らしを支え、安心して暮らせるまち

防災・医療・福祉などの取組を充実させ、必要な支援が必要な人に届く仕組みを整えることで、誰もが安心して暮らし続けられる地域を育みます。

目標指標：必要なときに支援やサービスを受けられ、安心して暮らせると感じる市民の割合

目標指標の考え方
6つの将来像の実現状況を、市民の日々の暮らしにおける実感から確認するため、政策分野ごとに目標指標を設定します。
これらの指標には、特定の数値目標は設定せず、市民の実感の経年変化や属性別の状況を継続的に把握し、施策の評価や事業・取組の改善に生かします。

※2040年市民会議の提言では、福知山市の記憶や個性を未来につなぐ視点から「文化」が最初に置かれています。
本構想では自治基本条例に基づく総合的な市政運営の指針として、政策分野を再整理し、誰もがこのまちの一員として尊重され、参画できることをまちづくりの土台に据えるため「共生」を最初に位置づけています。
そのうえで、「文化」を２番目に位置づけ、福知山らしさや市民の誇りを未来につなぐ重要な分野として継承しています。

３ みんなで取り組むまちづくり

将来像の実現に向けて、分野ごとに、
今後5年間（2027年度～2031年度）に取り組む施策を示します。

（１）まちづくりの取組体系
（２）施策分野
（３）暮らしのまんなかプロジェクト

(1)まちづくりの取組体系

政策分野	施策分野	施策
1　誰もがこのまちの一員として尊重し合う共生のまち	1　市民協働	①　多様な主体が参画する地域づくりの推進
		②　持続可能な地域コミュニティの形成
	2　人権尊重	①　互いの人権を尊重し認め合う環境づくりの推進
		②　多様な人権課題への相談支援の充実
	3　男女共同参画	①　性別等にかかわらない一人ひとりの人権の尊重
		②　あらゆる分野における男女共同参画と女性活躍の推進
	4　多文化共生	①　外国人住民と地域社会の相互理解と協働の促進
	5　移住・関係人口	①　福知山への新たな人の流れの創出
		②　地域と多様な人材をつなぐ関係づくりの推進
2　福知山の記憶と個性を未来につなぐまち	1　文化芸術	①　文化芸術に親しみ参加できる機会の充実
		②　文化芸術活動の継承と地域活性化の推進
	2　文化財・歴史	①　文化財の計画的な保存と継承
		②　文化財を生かした地域づくりの推進
	3　スポーツ	①　多様な世代が参加できるスポーツ機会と環境の充実
		②　特色あるスポーツ資源を通じた交流と地域活性化の推進
3　こども・若者が育ち、誰もが学び続けられるまち	1　妊娠・出産・子育て	①　切れ目のない妊娠・出産・子育て相談支援の推進
		②　課題を抱えるこどもと家庭の状況に応じた支援の推進
		③　地域をはじめ、さまざまな関係者が共にこどもと子育て家庭を支える環境づくり
	2　保育・幼児教育	①　多様なニーズに対応した保育・幼児教育体制の充実
		②　こどもの育ちを支える質の高い保育・幼児教育の推進
	3　学校教育	①　こども一人ひとりの可能性を伸ばす学びの充実
		②　家庭・学校・地域が連携した教育環境づくり
	4　社会教育	①　公民館や図書館などの社会教育施設の多機能化と生涯学習活動の推進
		②　こどもの居場所づくりの充実と多様な学びの提供
	5　大学・高等学校	①　福知山公立大学の教育研究の充実
		②　高校・大学と連携した人材育成と地域課題解決の推進
4　暮らしを支える産業と、賑わいあふれる持続可能なまち	1　商工業	①　地域産業の持続的な発展と競争力強化
		②　企業立地と産業基盤の充実
	2　観光	①　福知山城を起点とした観光資源の磨き上げと市内周遊の促進
		②　官民連携による誘客・滞在・消費拡大の推進
	3　農業	①　地域農業と農地を守る持続可能な農業の推進
		②　地域資源を生かした農村の多面的機能の維持・発揮
	4　林業	①　循環型の森林整備と森林資源の活用促進
		②　森林保全と治山による災害に強い地域づくり
	5　脱炭素	①　再生可能エネルギーの活用と省エネルギーの推進
		②　市民・事業者・地域と進める脱炭素まちづくりの推進

5 人とまちをつなぐ 暮らしの基盤が整うまち	1 道路	① 道路の計画的な維持管理と、橋りょうの予防保全型維持管理の推進による長寿命化
		② 暮らしと地域を支える道路ネットワークの形成
	2 河川	① 由良川流域全体で取り組む河川整備の推進
		② 由良川流域全体で取り組む内水対策の推進
	3 上下水道	① 安定した上下水道サービスの提供
		② 災害に強い上下水道基盤の整備
	4 公共交通	① 持続可能で利便性の高い公共交通ネットワークの形成
		② ICT等を活用した公共交通の利便性・生産性の向上
	5 居住基盤	① 地域特性に応じた適正な土地利用
		② 公営住宅・公園など誰もが暮らしやすい住環境の整備
6 いのちと暮らしを支え、 安心して暮らせるまち	1 防災・消防	① 災害に強い地域防災体制の構築
		② いのちと暮らしを守る消防・救急体制の充実
	2 健康づくり	① 生涯を通じた健康づくりの推進
		② 健康寿命を延ばす地域づくりの推進
	3 医療	① 持続可能な地域医療提供体制の確保
		② 地域で安心して暮らし続けるための医療・介護・福祉連携の強化
	4 地域福祉	① 互いに支え合い安心して暮らせる地域共生社会の推進
		② 複雑化・複合化する困りごとに対応する包括的な相談支援の充実
		③ 地域ぐるみの見守りと生活支援の充実
	5 高齢者福祉	① 高齢者の介護予防・社会参加と生きがいづくりの推進
		② 高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らせる地域包括ケアの推進
	6 障害者福祉	① 障害のある人の地域生活の支援と自立の促進
		② 障害のある人の就労と社会参加の促進
	7 防犯・交通安全 ・生活安全	① 犯罪のない安全・安心な地域づくりの推進
		② 交通安全思想の普及と人優先の交通安全対策の推進
		③ 安心して暮らせる生活環境の保全
	8 循環型社会	① ごみの発生抑制と資源循環の促進
		② 持続可能なごみ処理体制の確保
政策推進基盤 持続可能な行財政運営により、6つの将来像の実現と市民サービスの向上をめざします。	1 行政改革	① 市民サービスの向上につなげる仕事の進め方改革
		② 持続可能な行財政運営
		③ 人と組織の力を高める行政運営

暮らしのまんなか プロジェクト	Ⅰ 地域活動への多様な参加を広げる	Ⅱ 防災力を強化する
	Ⅲ 地域とともにこども・子育てを応援する	Ⅳ 地域の見守り・相談・生活支援を充実させる

暮らしのまんなかプロジェクト

長期ビジョンで示したとおり、2040年には2020年と比べて人口が9,708人減少すると見込まれています。
人口減少が進む中では、地域活動の担い手不足や地域コミュニティの希薄化などにより、行政サービスだけでなく、地域で支え合う力や人と人とのつながりを維持・強化していくことがこれまで以上に重要になります。
また、人口減少の影響は一つの分野にとどまらず、さまざまな課題が複雑に絡み合い、市民生活に大きな影響を及ぼすことが想定されます。2040年市民会議の提言から見えてきた暮らしの課題についても、その多くが人口減少と密接に関わっています。そこで本構想では、市民生活への影響が大きく、複数の政策分野が連携して取り組む必要があるテーマとして、次の4つを「暮らしのまんなかプロジェクト」に位置づけます。
4つのテーマは、さまざまな分野に関わる課題であり、1つの政策分野や部署だけでは解決することが困難です。それぞれのテーマに関係する施策を組み合わせ、庁内横断で取り組むとともに、市民や事業者など多様な主体との連携を進めます。

Ⅰ 地域活動への多様な参加を広げる

課題 地域活動の担い手不足

年齢や立場、居住地などにかかわらず、誰もが気軽に地域活動に関われる環境を整え、地域活動に参加する人や地域を持続的に訪れる人を増やし、それぞれが自分に合った形でつながり、楽しみながら参加できる地域コミュニティを育てます。

Ⅱ 防災力を強化する

課題 地域防災力を支える担い手不足と気候変動による災害リスクの増大

ハード・ソフト両面から災害に備え、地域、事業者、行政が連携していのちを守る防災・減災の力を高めます。

人口減少

Ⅲ 地域とともにこども・子育てを応援する

課題 子育ての孤立と、仕事や地域活動と自己実現との両立負担の増大

こどもと保護者の双方が、笑顔で自分らしく育っていける環境づくりをまち全体でバックアップします。

Ⅳ 地域の見守り・相談・生活支援を充実させる

課題 複合化・複雑化する課題を抱える人への対応

誰もが住み慣れた地域で最期まで自分らしく暮らせるよう、支え合いのまちづくりを共創します。

部署や組織の枠を越えて、市役所全体はもとより、市民や事業者など多様な主体と連携しながら取り組むことで、市民一人ひとりの幸せ（ウェルビーイング）の向上につなげていきます。

みんなで取り組むこと～自治基本条例推進委員会より～

自治基本条例推進委員会では、2022（令和4）年度から2025（令和7）年度にかけて、「市民懇談会からの21の提案」の具体化に向けた検討が行われてきました。検討の中では、人と人とのつながりの重要性や、孤独・孤立、情報の届きにくさ、担い手不足など、具体化に向けた多様なアイデアが出されました。

一方で、提案を実現していく上での課題も明らかになりました。特に、担い手や人材の確保、地域ごとの状況の違い、誰が主体となって取り組むのかという役割分担の不明確さ、議論を実行段階へ移すための体制や仕組みの不足が課題として挙げられました。これまでの議論を踏まえ、21の提案を一人ひとりができることから始め、地域の中で少しずつ広げていけるよう5つのテーマに整理しました。

施策分野において、市民や事業所、各種団体などが、小さなことから始め地域の中で少しずつ広げていける具体的な取組を記載し、それぞれの活動がつながり、みんなで共有・拡散していくための「合言葉」として、5つのテーマを＃（ハッシュタグ）で記載しています。

1

「ちょっとした気遣い」で声をかけ合い優しさの輪を広げよう

＃ちょっとした気遣い

●みんなで取り組むこと

一人暮らしのお年寄りや、学校や子育てなどで悩んでいる人が一人で寂しい思いをしないように、ご近所同士で「最近どう？」と声をかけ合ったり。そんな「ちょっとした気遣い」が広がるやさしいまちにしていこう。

2

お気に入りの福知山をみんなで「シェア」しよう！

＃魅力をアピール

●みんなで取り組むこと

お気に入りのお店や景色・イベント等、福知山の「いいな」と思うことを家族や友人に話したり、SNSで発信したり。身近なところから福知山の魅力を伝えていこう。

3

学校以外にも居場所を！好きや得意でつながるあたたかな居場所をつくろう

＃ほっとする居場所

●みんなで取り組むこと

好きなことや得意なことをきっかけに、みんなが安心して過ごし、のびのび学んだり、悩みを話したりできる場所をみんなでつくろう。

4

「やってみたい！」が広がる、楽しい地域活動を増やそう

＃楽しくチャレンジ

●みんなで取り組むこと

「やってみたい」「楽しそう」という気持ちを大切にしながら無理なく参加できる地域活動を広げていこう。あわせて、一人ひとりが、自分らしく力を発揮できる環境をつくっていこう。

5

福知山で働く・挑戦する！「やってみたい！」を応援する福知山へ

＃やってみたいにエールを

●みんなで取り組むこと

福知山で暮らす人も、一度まちを離れた人も、「このまちが好き」「また帰ってきたい」と思えるように。みんなでまちの魅力を育みながら、働くことやチャレンジにワクワクできるまちをつくっていこう。

（参考）市民懇談会からの21の提案

1	生活実感を入り口に、地域のことを「自分ごと」として 考えるきっかけとなる対話の場をつくろう
2	学校だけではない学びの場をつくり、 「生きる力」と「困難に対するしなやかさ」を育もう
3	「子育ての話」を気軽にでき、 先入観や「あるべき論」にとらわれず、一人ひとりの個性を 生かした子育てができる環境をつくろう
4	障害のある人や様々な悩みを抱え孤立しがちな子どもや家族に市民同士が互いに関心を持ち、手を差し伸べ、 誰も孤立させない環境をつくろう
5	学び続けたい大人たちが、 互いに学び合い、教え合う環境をつくり、 地域の課題を自ら解決できるコミュニティをつくろう
6	動画やデジタルを活用した「ICT教育」を推進し、 一人ひとりの状況にあわせたきめ細やかな学びを実現させると同時に、 生きる力を集団で学ぶ、成熟した学びをつくっていこう
7	福知山市の自然やコミュニティの中でしか体験できない 思い出をたくさん作ることで「心の豊かさ」を育むとともに 世界に向けて「発信したくなる気持ち」を育てよう
8	子育てを地域全体でサポートすることで 働く人が住みやすいまちをつくろう
9	多様な働き方、働く目的にこたえる “しごと”と“人”をつなぐ仕組みをつくろう
10	福知山市に住みたい希望をかなえられる働く場の確保を 大学や企業とも連携しながら、実現していこう

11	意欲ある起業家や地域を支える経営者の 挑戦と創意工夫を、まちぐるみでサポート、育成していこう
12	福知山市の魅力、強みを生かして、 儲かる観光業、農林畜産業をめざして盛り上げよう
13	福知山市の歴史、自然、文化などの魅力を 日本中、そして世界にむけてアピールしていこう
14	担い手が少なくなってきた時代に対応し、 自治会などの活動を見直し、開かれた運営を行っていこう
15	「やらなければならない」地域活動から、 「やりたい人がやりたいことをやる」地域活動へ変えていこう
16	自動車がなくても、買い物や通院に支障なく 生活ができる工夫、仕組みをつくろう
17	身近な場所に拠点をつくり、 様々なサービスを「行く」から「来る」に転換しよう
18	医療や介護をできる限り必要とせず、 健康で生き生きと長生きする「健康長寿」をめざそう
19	一人ひとりが楽しみながら、 様々な場で力を発揮することができる環境をつくろう
20	一人ひとりに寄り添ったきめ細やかな相談、支援を できる体制を、地域包括支援センターを中心につくろう
21	独居高齢者、老々介護、介護離職など、 様々な介護の事情や社会生活環境の変化をふまえ、 担い手の多様化と地域での支え合いの仕組みをつくろう

（２）施策分野

施策分野シートの見方

政策分野名 → 1　誰もがこのまちの一員として尊重し合う共生のまち

施策分野名 → 施策分野 1 市民協働

成果指標

施策等の成果を図るための指標を記載しています。

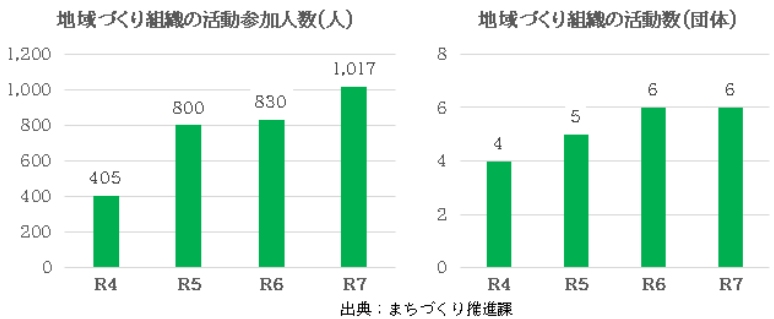
成果指標	まちづくり活動に関わったことがある人の割合	現状値 62%(R7)	目標値(R13) 72%

現状と課題

自治会活動、地域行事、防災や災害時の避難、見守り、環境美化などは、地域の暮らしを支える基盤です。
一方で、人口減少や高齢化のほか、人々の暮らし方、働き方の変化や地域との関わり方に対する意識の変化などにより、担い手不足が進み、従来どおりの形では地域活動の維持が難しくなってきている地域もあるため、地域ごとの人口構成や住民の意向を踏まえ、自治会等の既存組織の運営方法や活動内容の見直し、地域づくり組織の活用など、地域の実情に合った地域運営へ転換することが必要です。
こども・若者、転入者、学生、事業者、NPO、関係人口など、多様な主体が関わりやすい仕組みづくりが求められます。

現状と課題

施策分野における本市における現状や、2040年を見据えた課題を記載しています。



出典：まちづくり推進課

キーワード	参画・協働　自治会　地域づくり組織　住民自治　地域活動

キーワード
施策分野の内容を表す、代表的なワードを記載しています。

SDGs 17の目標
施策分野に関連するSDGs の目標を表示しています。



施策

施策①　多様な主体が参画する地域づくりの推進

こども・若者、転入者、学生、事業者、NPO、関係人口などが地域活動に関わりやすい仕組みを整えるとともに、地域内の対話や情報共有、多様な主体のつながり創出や相談支援などを担うコーディネート機能を通じて市民主体の地域づくりを進めます。

施策②　持続可能な地域コミュニティの形成

自治会長、消防団員、民生委員など地域を支える人たちが無理なく活動できる環境を整えるため、自治会、地域づくり組織などの運営を支援し、地域性に応じた住民自治による支え合いの仕組みづくりを進めます。

施策

現状と課題に対応するために取り組む施策と、主な内容を記載しています。

関連計画	―

関連計画

施策に関連する市の主な関連計画を記載しています。

みんなで取り組むこと

○地域のイベントに参加してみよう。
○ごみ出しや散歩のついでにご近所の方にあいさつしてみよう。
○こども・若者、転入者、学生、外国人住民、事業者、関係人口など多様な主体とつながろう。

#ちょっとした気遣い　#楽しくチャレンジ　#やってみたいにエールを

みんなで取り組むこと
施策分野において、市民や事業所、各種団体などが、小さなことから始め地域の中で少しずつ広げていける具体的な取組を記載しています。
また、自治基本条例推進委員会での議論を踏まえ整理した5つのテーマを＃（ハッシュタグ）で記載しています。

施策分野

1 市民協働

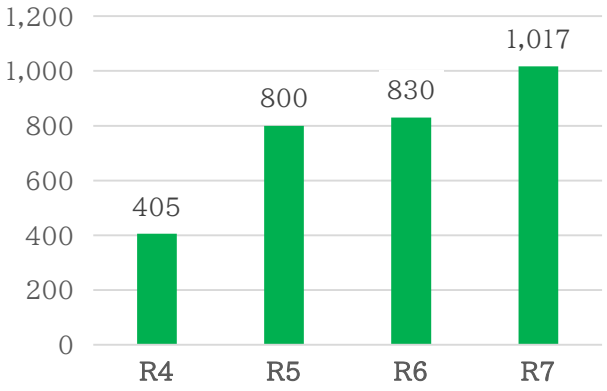
成果指標	まちづくり活動に関わったことがある人の割合	現状値 62%(R7)	目標値(R13) 72%

現状と課題

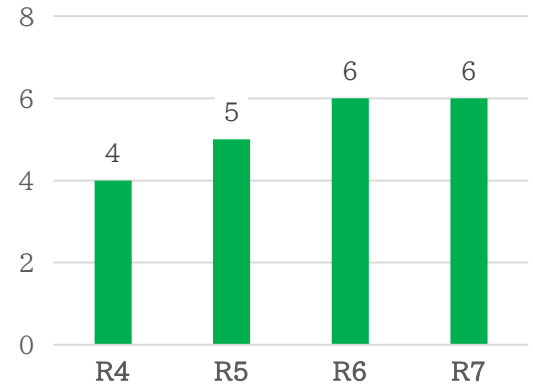
自治会活動、地域行事、防災や災害時の避難、見守り、環境美化などは、地域の暮らしを支える基盤です。

一方で、人口減少や高齢化のほか、人々の暮らし方、働き方の変化や地域との関わり方に対する意識の変化などにより、担い手不足が進み、従来どおりの形では地域活動の維持が難しくなってきている地域もあるため、地域ごとの人口構成や住民の意向を踏まえ、自治会等の既存組織の運営方法や活動内容の見直し、地域づくり組織の活用など、地域の実情に合った地域運営へ転換することが必要です。こども・若者、転入者、学生、事業者、NPO、関係人口など、多様な主体が関わりやすい仕組みづくりが求められます。

地域づくり組織の活動参加人数(人)



地域づくり組織の活動数(団体)



出典：まちづくり推進課

キーワード	参画・協働　自治会　地域づくり組織　住民自治　地域活動

施策

施策①　多様な主体が参画する地域づくりの推進

こども・若者、転入者、学生、事業者、NPO、関係人口などが地域活動に関わりやすい仕組みを整えるとともに、地域内の対話や情報共有、多様な主体のつながり創出や相談支援などを担うコーディネート機能を通じて市民主体の地域づくりを進めます。

施策②　持続可能な地域コミュニティの形成

自治会長、消防団員、民生委員など地域を支える人たちが無理なく活動できる環境を整えるため、自治会、地域づくり組織などの運営を支援し、地域性に応じた住民自治による支え合いの仕組みづくりを進めます。

関連計画	―

みんなで取り組むこと

○地域のイベントに参加してみよう。
○ごみ出しや散歩のついでにご近所の方にあいさつしてみよう。
○こども・若者、転入者、学生、外国人住民、事業者、関係人口など多様な主体とつながろう。

#ちょっとした気遣い　#楽しくチャレンジ　#やってみたいにエールを

施策分野

2　人権尊重

成果指標		現状値	目標値(R13)
	人権に関わって問題と思われる言動を受けたことがある人の割合	35%(R4)	25%

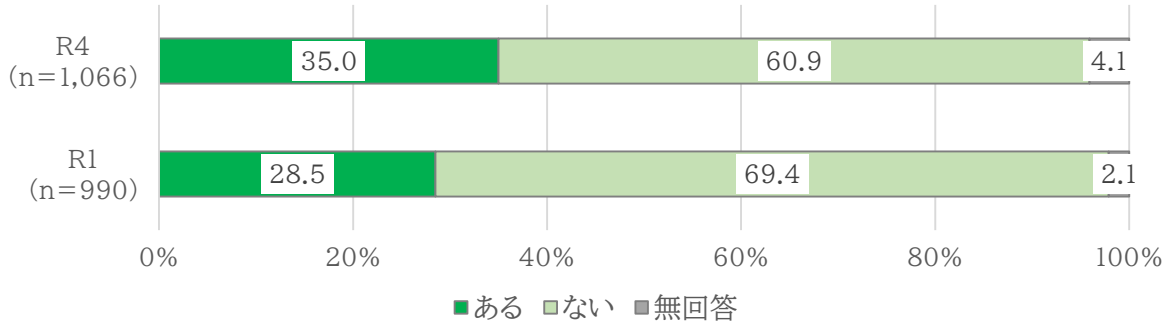
現状と課題

本市は、人権尊重のまちづくりに向けて、人権尊重推進条例やインターネット上の誹謗中傷や差別等の防止及び被害者支援等に関する条例の制定等推進体制の整備や人権教育・啓発に取り組んでいます。

人権問題は部落差別、女性、こども、高齢者、障害のある人、外国籍の人、性的マイノリティなど多様であり、インターネット・SNSや生成AI等の普及により人権侵害の形態は複雑化・深刻化しています。

一人ひとりの人権が尊重された誰もが自分らしく安心して暮らせるまちをつくるためには、日常生活の中で人権を自分ごととして考える機会を広げ、差別の解消を図るとともに、困りごとを抱えた人が早期に相談や支援につながる体制の充実が求められます。

人権侵害にあった経験



出典：人権推進室「令和４年度福知山市人権に関する意識調査」

キーワード　人権擁護　人権侵害　保護・救済　同和問題（部落差別）　マイノリティ

施策

施策①　互いの人権を尊重し認め合う環境づくりの推進

性別、年齢、出身、国籍、障害の有無などにかかわらず、誰もが尊重し合えるよう、学びの機会や啓発、情報発信により一人ひとりの行動につなげる取組を進めます。

施策②　多様な人権課題への相談支援の充実

差別、偏見、インターネット上の人権侵害など複雑化する課題に対応し、早期相談、関係機関連携、必要な支援につながる体制を整えます。また、被害者も加害者も生まないための若年層からインターネットリテラシー教育を進めます。

関連計画
- ○第４次福知山市人権施策推進計画
- ○第４次福知山市男女共同参画計画（はばたきプラン2021後期計画）
- ○福知山市教育大綱

みんなで取り組むこと

- ○日常の会話やSNSで、相手を傷つけるコトバを使っていないか相手の立場に立って意識してみよう。
- ○困っている人を見かけたら、相談先を一緒に探してみよう。
- ○地域の人権講座に参加してみよう。

#ちょっとした気遣い　#やってみたいにエールを

施策分野

3 男女共同参画

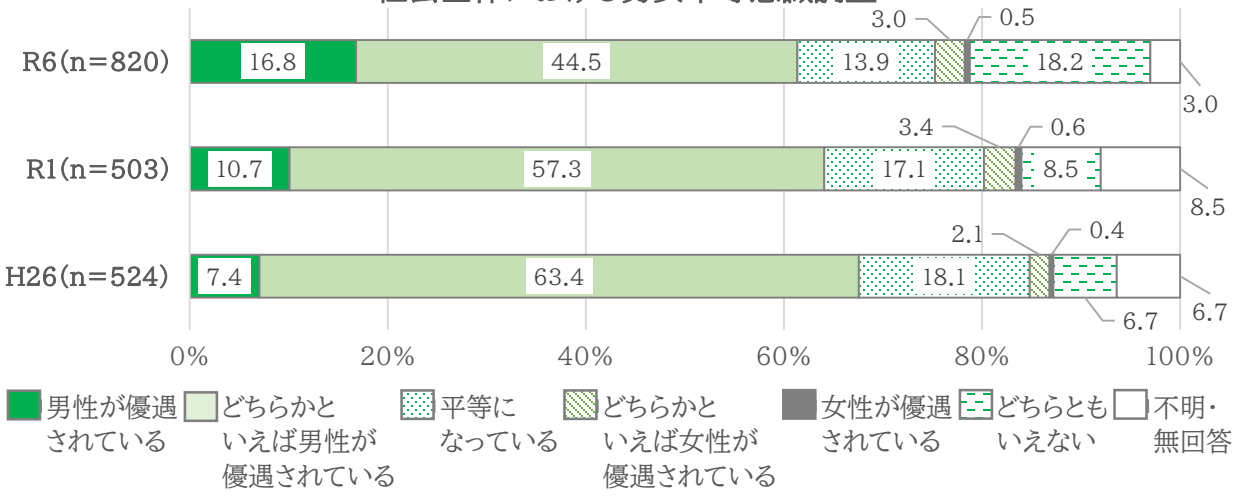
成果指標	「社会全体で、男女が平等である」と感じている市民の割合	現状値	目標値(R13)
		13.9%(R6)	30.0%

現状と課題

男女共同参画社会の実現に向けて、啓発活動や女性活躍支援、ワーク・ライフ・バランスの推進等に取り組んでいます。しかし、固定的な性別役割分担意識は依然として残っており、家庭や地域、職場における役割の偏りや意思決定の場への女性参画が進まないことなどが課題となっています。

人口減少が進む中、性別にかかわらず、誰もが能力を発揮し、安心して暮らし続けられる社会の実現が求められています。行政、市民、事業者等が連携し、一人ひとりの多様な生き方を尊重し合う取組を進めていくことが重要です。

社会全体における男女平等意識調査



出典：人権推進室「福知山市男女共同参画に関する市民意識調査報告書」

キーワード	ジェンダー平等　多様性(ダイバーシティ)　アンコンシャスバイアス 女性活躍　性の多様性(LGBTQ+)

施策

施策①　性別等にかかわらない一人ひとりの人権の尊重

女性に対する暴力の根絶と人権の尊重、男女の身体的性差を踏まえた生涯にわたる健康支援、多様な性への理解促進と支援を推進します。

施策②　あらゆる分野における男女共同参画と女性活躍の推進

女性をはじめ多様な人材が地域、職場、意思決定の場で力を発揮できるよう、アンコンシャスバイアス解消に向けた啓発やメンター制度の確立に向けた取組と、男性の育児・介護休業制度の取得促進につながる環境づくりを進めます。

関連計画	○第４次福知山市男女共同参画計画（はばたきプラン2021後期計画） ○第４次福知山市人権施策推進計画 ○福知山市教育大綱

みんなで取り組むこと

○家庭や地域の役割を、思い込みや性別で決めつけずに話し合おう。
○性別や年齢にかかわらず、誰もが発言しやすい会議や活動にしよう。
○一人ひとりの違いを認め合い、誰もが自分らしく能力を発揮できる地域や職場をつくろう。

#ちょっとした気遣い　#楽しくチャレンジ　#やってみたいにエールを

施策分野

4　多文化共生

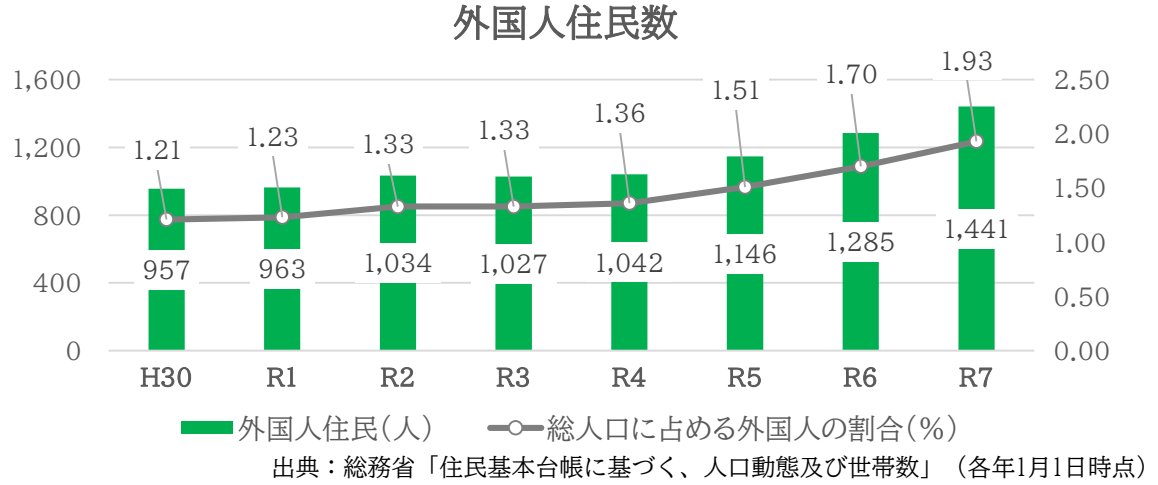
成果指標

	現状値	目標値(R13)
多文化共生ボランティア登録者数における外国人住民の割合	10.8%(R7)	20.0%

現状と課題

外国人住民は、地域産業や日常生活を支える一員として重要な存在となっています。一方で、言語や文化、生活習慣の違いにより、生活情報、医療、防災、教育、子育て、地域参加などの面で課題が生じることがあります。

今後も労働力不足や人口構造の変化により増加傾向にある外国人住民を「地域を共につくる主体」として捉え、誰もがこのまちの一員として安心して暮らせるよう、お互いの文化や生活習慣の違いなど相互理解を深め、やさしい日本語や多言語による情報提供・相談支援を充実させるほか、地域とのつながりを広げていくことも必要です。



出典：総務省「住民基本台帳に基づく、人口動態及び世帯数」（各年1月1日時点）

キーワード　多文化共生　外国人住民　参画・協働　地域活動

施策

施策①　外国人住民と地域社会の相互理解と協働の促進

多言語・やさしい日本語による医療、防災、教育、子育てなどの生活情報の発信と相談支援を充実し、地域参加につながりやすい環境を整えるとともに、外国人住民、受入事業所、地域住民の交流機会を拡大し、文化や生活習慣の違いを互いに理解し合える関係づくりを進めます。

関連計画　－

みんなで取り組むこと

○外国人住民にも、やさしい日本語で地域行事の情報を伝えてみよう。
○お互いの国の文化や習慣を学んでみよう。

#ちょっとした気遣い　#やってみたいにエールを

施策分野

5　移住・関係人口

成果指標	市の支援（空き家情報バンク制度、お試し住宅、定住促進住宅の利用）を通じた移住者数（累計）	現状値 348人 （R3～R7）	目標値（R13） 年70人/ 350人（5年間累計）

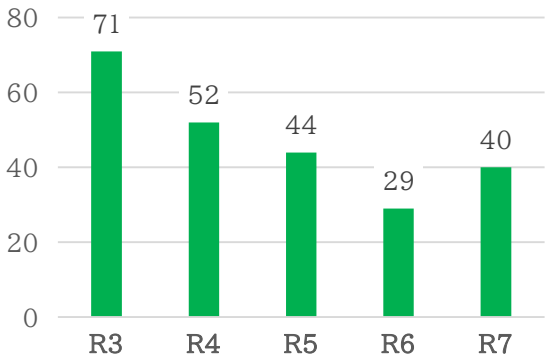
現状と課題

人口減少が進む中、地域の活力を維持するためには、移住・定住人口の確保と福知山に継続的に関わる関係人口を増やすことが重要です。

市街地の利便性や中山間地域の自然、また、歴史文化、地域のつながり、豊富な就労機会など、本市の暮らしの魅力を生かした情報発信や、住まいや仕事の確保、地域との接点づくり、移住後の定着支援に関する工夫、イベントを通じた地域住民との交流促進などが必要です。

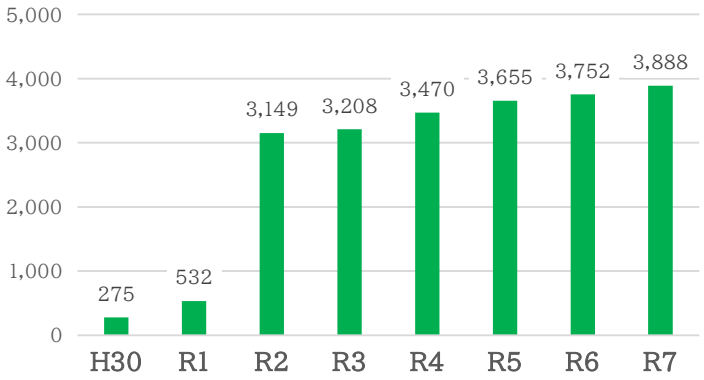
これらにより、地域課題に関わる移住者、関係人口、事業者、学生、副業人材などをつなぎ、地域と多様な人材が支え合う関係づくりが求められています。

空き家情報バンク制度を通じた移住者数（人）



出典：まちづくり推進課

いがいと！福知山ファンクラブ　市外会員数（人）



出典：ふるさと応援課

キーワード	移住　定住　関係人口　空き家情報バンク　ふるさと住民登録制度

施策

施策①　福知山への新たな人の流れの創出

子育て・イベント・移住者インタビュー等の情報発信、暮らし体感ツアー、お試し住宅などを通じて、福知山で暮らす具体的なイメージを持てる機会を広げます。さらに、空き家情報バンクや定住促進住宅の活用に加え、地域との情報共有や移住者の受け入れ体制づくりを支援し、移住・定住につなげます。

施策②　地域と多様な人材をつなぐ関係づくりの推進

本市の自然や歴史、農業や商工業などのさまざまな魅力を生かした地域産品の魅力発信を行い、国が実施する「ふるさと住民登録制度」などと連携して、地域づくりに関わる市民などと関係人口をつなげます。

関連計画	－

みんなで取り組むこと

○福知山の暮らしのよさを友人に話したり、SNSで広めよう。
○移住者にあいさつ・声かけをしたり地域の活動に誘ってみよう。
○関係人口など多様な主体が、地域活動に参加できる仕組みをつくろう。

#魅力をアピール　#楽しくチャレンジ

施策分野

1　文化芸術

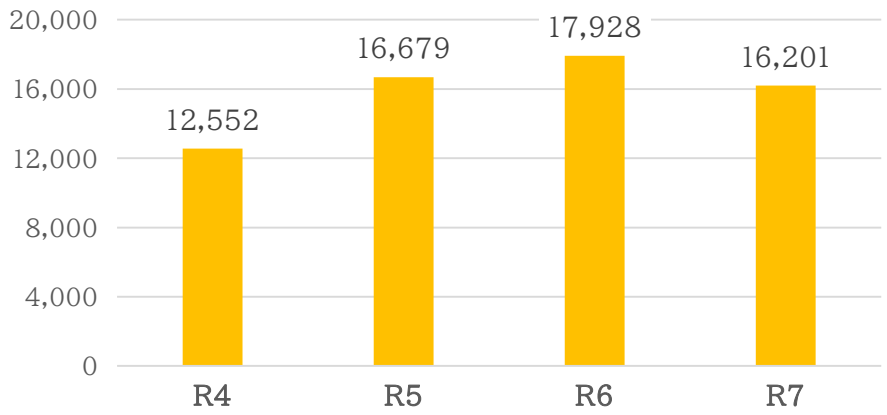
成果指標

文化･芸術活動実施率	現状値	目標値(R13)
	47%(R7)	57%

現状と課題

文化芸術は、豊かな人間性や創造性を育み、人と人とをつなぐ重要な役割を担っています。本市では、文化施設や文化資源を幅広く有しており、文化芸術活動を行っている市民団体による文化活動や発表機会が継続されていますが、文化施設の老朽化に伴う利用環境の課題、また、参加者の固定化や高齢化の進行による市民団体の担い手不足が課題となっています。そのため、世代やジェンダー、障害の有無、価値観の多様化にかかわらず、すべての市民が文化芸術に触れ、参加し、表現できる環境を整えることが必要です。文化芸術を個人の活動にとどめず、学び、交流、継承、地域活性化につなげる視点が求められます。

文化芸術関連事業への参加者数(人)



出典：文化・スポーツ振興室

キーワード　文化活動　芸術活動　施設整備　伝統行事

施策

施策①　文化芸術に親しみ参加できる機会の充実

新文化ホールの整備をはじめとした文化施設の充実、公共空間の活用や芸術家との交流促進により、こども、若者、子育て世代、高齢者、障害のある人など、すべての市民が文化事業に参加しやすい環境や条件を整え、情報発信することで、文化芸術に親しみ鑑賞・体験できる機会をつくり、市民の生活を豊かにし、賑わいと魅力あるまちづくりをめざします。

施策②　文化芸術活動の継承と地域活性化の推進

伝統行事、食文化、工芸などの地域に根ざした文化資源を多様な手法を活用して次世代に情報発信するとともに、教育機関・観光産業などとの連携によるコンテンツの創出を行うことで、市民や関係人口の参加を促し、文化芸術活動の継承と地域の活力づくりにつなげます。

関連計画
- ○福知山市文化振興基本方針
- ○福知山市教育大綱

みんなで取り組むこと

○地域の文化祭や展示、発表会を見に行ってみよう。
○地域の行事や文化を、こどもや若い世代に伝えよう。
○文化芸術の楽しさ、喜びを体験できる場をつくってみよう。

#魅力をアピール　#楽しくチャレンジ

施策分野

2　文化財・歴史

成果指標

有形･無形文化財の認知度	現状値	目標値(R13)
	49%(R7)	59%

現状と課題

文化財や歴史資源は、地域の記憶と個性を伝える重要な地域資源です。一方で、本市には多くの指定等文化財があるものの、多くの市民がこのことを認識しているとは限りません。また、文化財や伝統行事等に対する関心も地域によって差があります。人口減少や高齢化が進む中、地域で受け継がれてきた文化財や歴史文化を次世代へ伝えるためには専門的知見、担い手、資金が必要です。指定等文化財の活用と指定等による保存・継承を推進するとともに、引き続き学校教育、観光、まちづくりと連携し、市民が身近に歴史を感じられる文化財の活用が求められます。

福知山市文化財指定件数　合計２９７件

国	指定	6件
	登録	15件
	設定	1件
	認定	1件
市	指定	146件
	重要	32件

府	指定	35件
	登録	13件
	決定	5件
	選定	2件
	暫定	67件

※府登録の13件のうち、13件市指定、
　府暫定の67件のうち、11件市指定、2件市重要と重複

出典：文化・スポーツ振興室

キーワード　文化財　歴史資源　保存・継承　歴史文化

施策

施策①　文化財の計画的な保存と継承

学校教育や地域学習と連携しながら、市内の身近な歴史的建造物を訪ねたり、歴史資料を調べたりするなど、市民が郷土への理解と愛着を深め、そして誇りを醸成する機会をつくり、地域に残る文化財や歴史資料を計画的に保存・継承します。

施策②　文化財を生かした地域づくりの推進

地域に残る文化財や歴史資料の調査・整理を進め、その情報を発信するとともに、まち歩き、観光、地域活動と結びつけ、市民が身近に地域の歴史を感じられる取組を進めます。

関連計画
○福知山市文化振興基本方針
○福知山市教育大綱

みんなで取り組むこと

○福知山城や地域の歴史スポットを訪ねてみよう。
○地域に残る文化財や歴史を家族で話題にしてみよう。
○年配の方々から地域に伝わる歴史を聞いてみよう。

＃魅力をアピール　＃楽しくチャレンジ　＃やってみたいにエールを

施策分野

3　スポーツ

成果指標

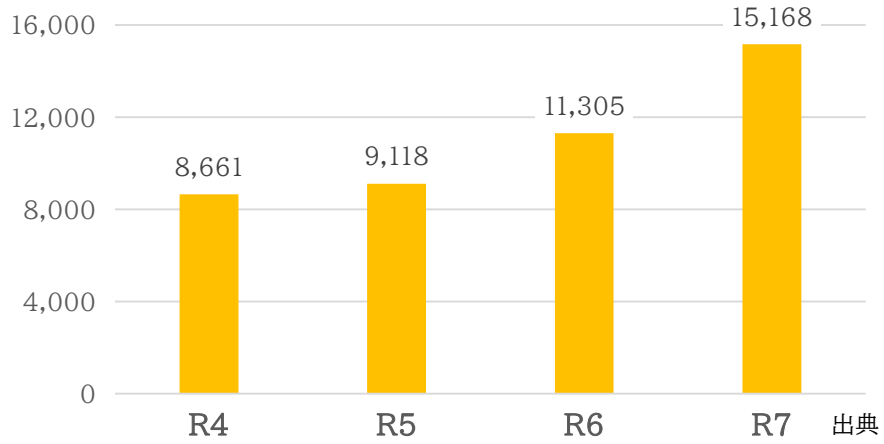
	現状値	目標値(R13)
スポーツ関与率	55%(R7)	66%

現状と課題

スポーツは、健康づくり、生きがい、地域交流を支える身近な活動です。本市では、福知山マラソンや各種スポーツ団体、三段池公園などの施設が市民参加や交流を支えています。一方で、少子高齢化による競技団体の担い手の減少、施設の維持管理や改修、更新、アーバンスポーツやニュースポーツなどへの対応も課題となっています。

今後は、こどもから高齢者まで、年齢や体力に応じてスポーツに親しめる環境づくりが必要です。スポーツを健康づくりだけでなく、交流人口の拡大や地域活性化につなげる視点も重要です。

スポーツ関連事業への参加者数(人)



出典：文化・スポーツ振興室

キーワード　健康づくり　生涯スポーツ　生きがいづくり　交流人口

施策

施策①　多様な世代が参加できるスポーツ機会と環境の充実

こどもから高齢者まで、年齢や体力、障害の有無にかかわらず参加できるスポーツ機会を広げ、健康づくりと連携しながら、新たな陸上競技場の整備や、その他施設の維持管理・長寿命化・統廃合など公共施設マネジメントとの整合を図り、安全で快適な利用環境を整えます。

施策②　特色あるスポーツ資源を通じた交流と地域活性化の推進

三段池公園などの拠点施設をはじめ、福知山マラソンや豊かな自然環境といった特色あるスポーツ資源を生かし、スポーツイベントやアウトドア活動を通じて交流人口と地域活力を高めます。また、こどもたちに体験機会を提供するため、多種多様なトップアスリートを招聘したイベントを実施するなど競技力向上に向けた取組を推進します。

関連計画
- ○福知山市スポーツ推進計画
- ○福知山市教育大綱

みんなで取り組むこと

○家族や友人、地域の人と一緒に、無理なく体を動かすスポーツによる交流機会をつくってみよう。
○福知山マラソンや地域のスポーツイベントを、参加・応援・ボランティアで支えよう。

＃魅力をアピール　＃楽しくチャレンジ　＃やってみたいにエールを

施策分野

1　妊娠・出産・子育て

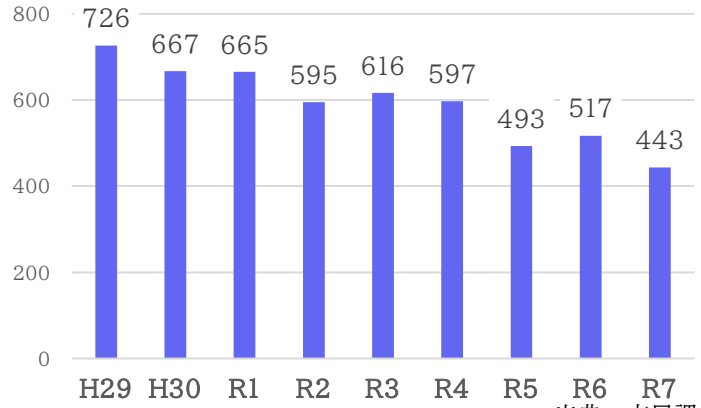
成果指標		現状値	目標値(R13)
	妊娠･出産･子育てに関して、必要なときに相談でき、支援や地域のつながりを得られると感じる保護者の割合	21.6% （現まちづくり構想の類似指標のR7実績値）	50%

現状と課題

少子化が進む中、将来こどもを産み育てたいと思う人が、その希望を持ち続け、安心してその選択ができる環境づくりは、まちの将来に直結する重要課題です。妊娠期から子育て期までの相談支援や経済的支援に取り組んできましたが、核家族化、地域のつながりの希薄化、家庭環境の多様化により、不安や孤立を抱える家庭があります。出生数の減少が続く中で、子育て家庭の状況に応じたきめ細かな支援が求められます。

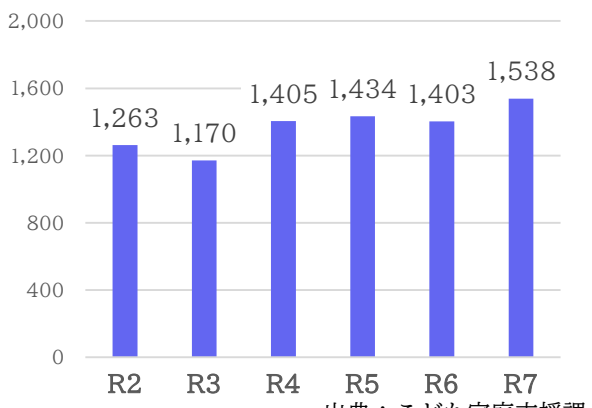
今後は、保健、福祉、教育、地域が連携し、切れ目のない支援と地域全体で子育てを支えることが必要です。

出生数(人)



出典：市民課

子育て総合相談窓口件数(件)



出典：こども家庭支援課

キーワード	妊娠　出産　子育て家庭　切れ目ない支援　子育てにやさしいまちづくり

施策

施策①　切れ目のない妊娠・出産・子育て相談支援の推進

妊娠期から子育て期までを見通し、妊産婦や乳幼児の健診、妊産婦からの相談対応、訪問支援等に早期から取り組み、保護者やこどもに寄り添いながら、安心して出産、育児ができるよう支援します。

施策②　課題を抱えるこどもと家庭の状況に応じた支援の推進

経済的な困難、社会的孤立、養育の不安、発育・発達における困りごと、複雑な家庭環境に起因する問題などを早期に把握し、保健・福祉・介護・医療・教育などの関係者が連携して課題に対応する重層的支援ネットワークにより、それぞれのこどもや家庭の状況に応じた支援を行います。

施策③　地域をはじめ、さまざまな関係者が共にこどもと子育て家庭を支える環境づくり

こどもが安心して過ごし、遊び、交流できる場について、市民の声を聴きながら整備に取り組むとともに、地域団体、事業所、市民、行政などが連携・協力して、子育て世代にとってやさしいまちづくりの機運醸成を図り、地域全体で子育てを支える環境づくりを進めます。

関連計画	○第３期福知山市子ども・子育て支援事業計画 ○福知山市こども・若者計画

みんなで取り組むこと

○こどもや子育て家庭が参加しやすい地域行事や交流の場を広げ、つながる機会を大切にしよう。
○こどもが安心して過ごせる居場所づくりや、遊び・学び・体験の機会づくりをすすめよう。
○子育て世帯へ、あたたかいまなざしをむけよう。
○見守りや声かけなど、誰もができる範囲で子育て家庭を応援しよう。

#ちょっとした気遣い　#楽しくチャレンジ　#ほっとする居場所　#やってみたいにエールを

施策分野

2　保育・幼児教育

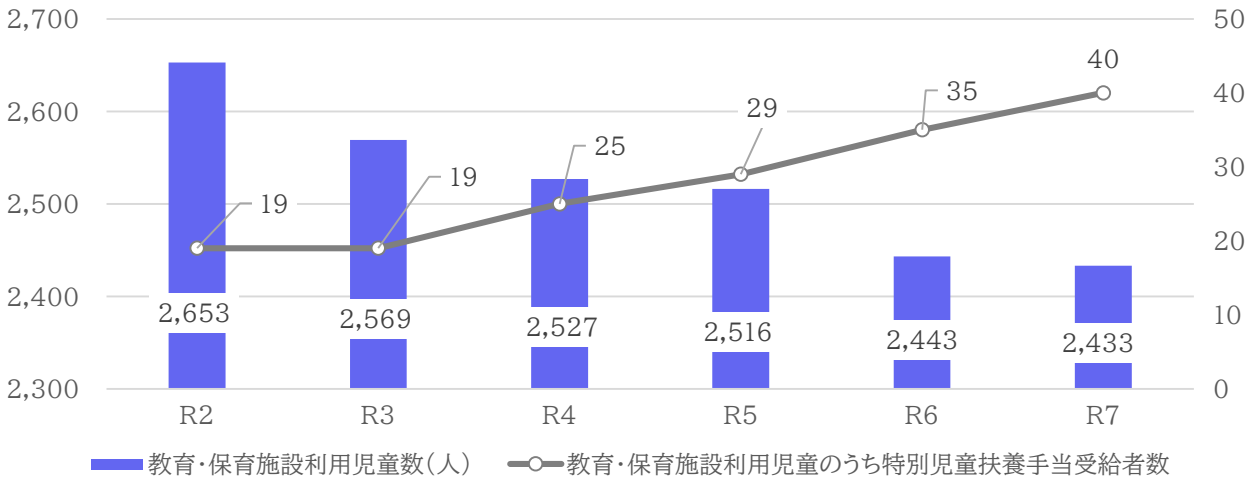
成果指標		現状値	目標値(R13)
	保育サービスの内容に満足している保護者の割合	21.9% (現まちづくり構想の類似指標のR7実績値)	85%

現状と課題

共働き世帯の増加や就労形態の多様化により、保育ニーズは多様化しています。一方で、保育人材の確保、保育士の負担軽減、こどもの育ちを支える質の高い保育・幼児教育の維持が課題です。市街地と周辺地域では、人口動向や施設利用、家庭の支援ニーズにも違いがあります。

今後は、こども一人ひとりの発達や個性を大切にしながら、多様な保育ニーズに対応し、家庭、園、地域、関係機関が連携して、安心して子育てできる体制を整えることが求められます。

教育･保育施設利用児童数と特別扶養手当受給者数(人)



出典：幼保支援課

キーワード　多様な保育ニーズ　保育園　保育人材の確保
質の高い保育・幼児教育　幼保小連携

施策

施策①　多様なニーズに対応した保育・幼児教育体制の充実

多様な保育ニーズに対応するため、共働き世帯への支援や未就園児が幅広く利用できる仕組みの推進など、保護者が安心して働き、子育てできる体制を整えます。

施策②　こどもの育ちを支える質の高い保育・幼児教育の推進

少子化に対応した今後の公立園のあり方を検討する中で、保育士等の確保・育成、保育士の負担軽減に取り組むほか、幼保小連携を強化し、発達や学びの連続性を意識した架け橋期カリキュラムの推進を図るなど、人間形成の基礎を培う極めて重要な乳幼児期に、こども一人ひとりの発達や個性を大切にしながら、きめ細かく質の高い保育・幼児教育を提供します。

関連計画
- ○第３期福知山市子ども・子育て支援事業計画
- ○福知山市人権保育基本方針
- ○福知山市教育大綱

みんなで取り組むこと

- ○園や地域の行事に協力し、こどもたちの育ちを地域全体で応援しよう。
- ○こどもや保護者が安心して過ごせるよう、あいさつや見守りを大切にしよう。

#ちょっとした気遣い　#ほっとする居場所　#やってみたいにエールを

施策分野

3 学校教育

成果指標	中学生の質問調査において「自己有用感」の回答が肯定的な生徒の割合	現状値 83.7%(R8)	目標値(R13) 87%

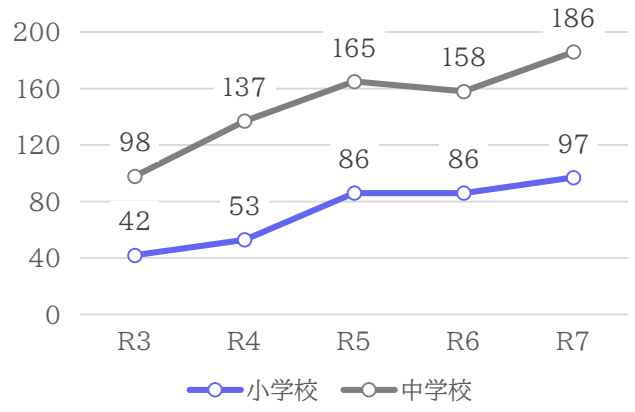
現状と課題

少子化が進む中、こどもを取り巻く環境は、情報化や家庭環境の多様化、地域とのつながりの希薄化などにより大きく変化しています。学力の定着に加え、予測困難な時代を生きるため、自ら考え、行動し、他者と協働しながら課題を解決する力の育成が求められています。

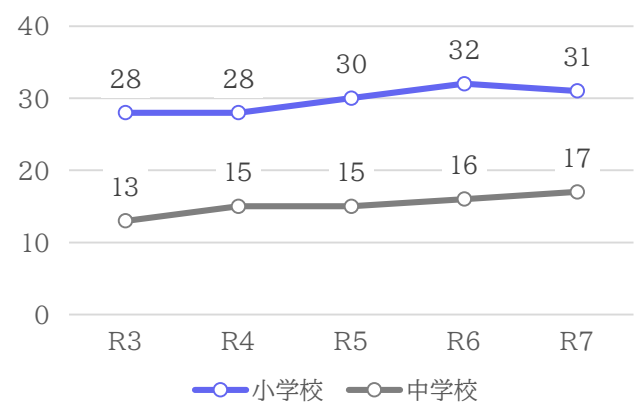
また、全国的な傾向と同様、不登校児童生徒や特別な支援を必要とする児童生徒が増加しており、個々のニーズへの対応が求められています。

地域との関わりや体験活動が減少する中、家庭、学校、地域が一層連携し、社会全体でこどもの学びと育ちを支える環境づくりが必要となっています。

年度別不登校児童生徒数(人)



年度別特別支援学級数(学級)



出典：学校教育課

キーワード	情報活用能力　教育環境づくり　多様な教育的ニーズ

施策

施策①　こども一人ひとりの可能性を伸ばす学びの充実

一人ひとりの個性や可能性を大切にし、主体的に学び、他者と協働しながら課題を解決する力を育みます。生成AIをはじめ、ICTを活用する中で情報活用能力を高め、自ら考え判断し創造する力を育成するとともに、地域の特色を生かした学びや体験活動を通して将来を切り拓く力を育てます。

施策②　家庭・学校・地域が連携した教育環境づくり

家庭・学校・地域が連携・協働し、学校運営協議会と地域学校協働活動の一体的な取組を充実させるとともに、教職員の働き方改革を推進し、地域全体でこどもの学びと成長を支える教育環境づくりを進めます。

また、不登校や特別な支援を必要とする児童生徒への対応など、多様な教育的ニーズに応じた支援や安心して学べる環境を整えます。

関連計画	○福知山市教育大綱 ○福知山市立学校教育内容充実推進プランPlus（『響』プラン・F-Plus） ○福知山市学校施設長寿命化計画 ○第2期福知山市型多様な学びアクションプラン

みんなで取り組むこと

○登下校中のこどもたちにあいさつし、地域で安全を見守ろう。
○地域の仕事や歴史を、こどもたちに伝えてみよう。

#ちょっとした気遣い　#楽しくチャレンジ　#やってみたいにエールを

施策分野

4 社会教育

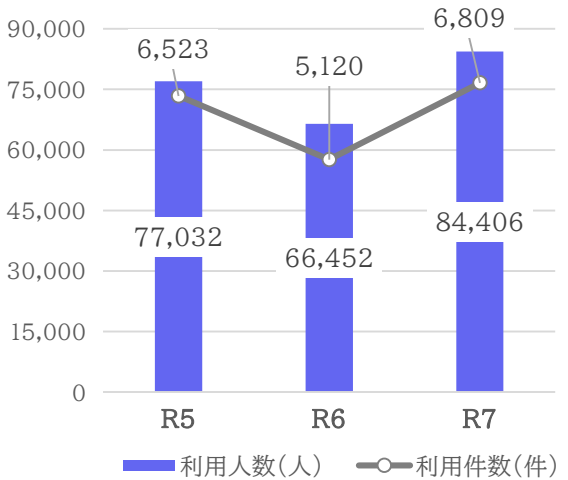
成果指標	自主的な学習活動で得られた成果を生かして地域･市民･文化活動などに参加した人の割合	現状値	目標値(R13)
		23%(R7)	40%

現状と課題

人生100年時代を迎え、公民館や図書館などの社会教育施設が、学びや交流の拠点としての役割を担い、こどもから高齢者まで、いつでも、誰でも、どこででも、学び続けることができる環境づくりを進めています。

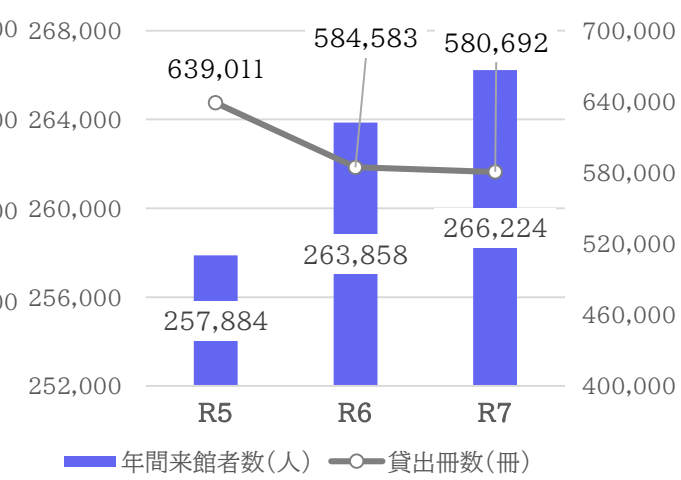
一方で、暮らし方や働き方の変化、地域との関わり方への意識の変化による地域活動の担い手不足、学習機会への参加者の固定化が課題となっています。キャリアアップなど多様化するニーズやこどもの居場所づくりに対応するとともに、市民が学びで得た知識・技術・経験を通じて地域への関心を高め、まちづくりに結びつけていくことが必要です。

公民館施設利用件数･人数



出典：中央公民館

図書館来館者数と貸出冊数



出典：図書館

キーワード	公民館　図書館　生涯学習　放課後活動　学習支援

施策

施策①　公民館や図書館などの社会教育施設の多機能化と生涯学習活動の推進

公民館や図書館などの社会教育施設を、市民の学びや交流の場、地域活動、世代間交流の拠点として、人をつなぐ地域づくりを進めます。また、企業・大学・社会教育関係団体などと連携・協働した市民の多様な学習ニーズへの対応やリスキリングに取り組める機会を提供するなど、誰もが生涯を通じて学ぶことができ、その学びをまちづくりに生かすとともに、自らの生きがいづくりにもつながる場や機会の充実に取り組みます。

施策②　こどもの居場所づくりの充実と多様な学びの提供

地域人材の活用を行い、いつでも・どこででも、こどもが安心できる居場所づくりに取り組みます。また、放課後に学び、遊び、交流する機会の提供を行い、子育て家庭を支え、社会全体でこどもを育む環境づくりを進めるとともに、多様な体験活動や学びの場の提供を通じて、人間性豊かな人材の育成を進めます。

関連計画	○福知山市教育大綱 ○第４次福知山市子どもの読書活動推進計画

みんなで取り組むこと

○公民館や図書館の講座・イベントに参加してみよう。
○自分の得意なことを、地域やこどもたちに伝えてみよう。

#ほっとする居場所　#楽しくチャレンジ　#やってみたいにエールを

施策分野

5　大学・高等学校

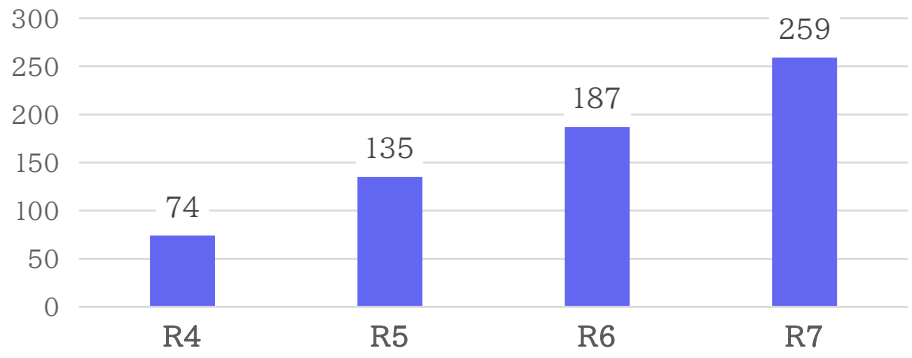
成果指標		現状値	目標値(R13)
	福知山公立大学の志願倍率	2.5倍 （令和8年度入学者選抜）	3.2倍

現状と課題

高校や大学は、若者の学びと人材育成を担う教育機関であるとともに、地域課題の解決や産業振興、地域活性化を推進する重要な主体です。本市に立地する福知山公立大学は、防災や観光のDX、地域課題の分析など、高度で多様な研究を通じて自治体や産業界と連携し、まちづくりを支える拠点としての役割を果たしており、地域、事業者、行政などと連携し、地域振興につなげることが期待されています。一方で、進学・就職を機に市外へ転出する若者は多く、地域との接点の創出や市内で活躍する機会の確保が課題です。

若者が福知山で学び、関わり、挑戦できる環境を広げ、将来の定住や地域を支える人材の育成につなげる必要があります。

公立大学と外部団体の連携事業実績(累計)(件)



出典：経営戦略課

キーワード	福知山公立大学　高等学校　産学官の共創　若者の挑戦

施策

施策①　福知山公立大学の教育研究の充実

次世代を担うデジタル人材や地域貢献人材の育成に取り組むとともに、自治体や産業界と連携した高度な研究を推進することで、福知山公立大学の充実を図ります。

施策②　高校・大学と連携した人材育成と地域課題解決の推進

高校・大学、事業者、地域、行政などの多様な主体と連携し、探究学習や地域活動、産学官共創を通じた実践的な学びを推進します。また、既に地域で活動している若者の活躍の場を広げ、地域の強みへとつなげます。

大学等の知見やデータ利活用を地域課題の解決に結びつけるとともに、若者の挑戦を後押しする環境づくりと、次代を担う人材育成を一体的に図ります。

関連計画	○「知の拠点」整備構想 ○公立大学法人福知山公立大学第２期中期目標 ○福知山市教育大綱

みんなで取り組むこと

○高校生・大学生の地域活動を受け入れよう。
○若者の挑戦を地域や事業所で応援しよう。
○若者の交流の場・発信の場をまち全体でつくっていこう。

#楽しくチャレンジ　#やってみたいにエールを

施策分野

1 商工業

成果指標

	現状値	目標値(R13)
長田野(アネックス含む)工業団地の就業者数	8,730人(R8.4月時点)	10,000人
認定創業支援事業計画に基づく創業者数	226人 (R3～R7の合計)	250人 (計画期間内の合計)

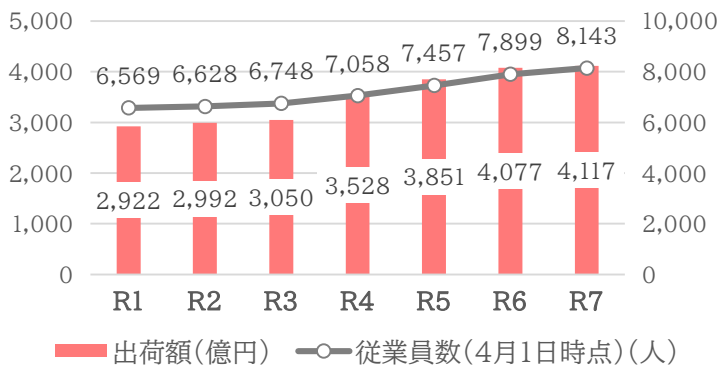
現状と課題

長田野工業団地をはじめ、市内の中小企業は、北近畿の産業拠点として地域経済と雇用を支えています。一方で、人口減少による市場縮小、人材不足、事業承継、生産性向上、デジタル化への対応などの課題が顕在化しています。加えて、新たな投資ニーズへの対応が課題となっています。

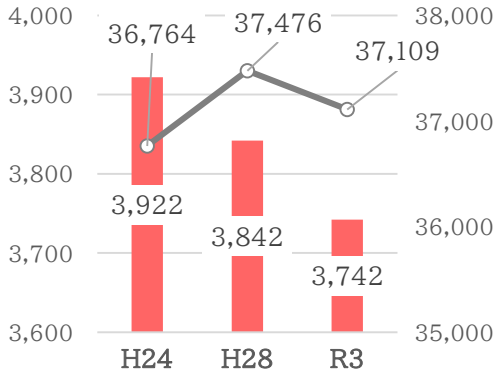
また、市街地では商店街の店舗数が減少している一方、商店街以外の区域で出店する個店も増え、国道9号沿いには全国規模のチェーン店や大規模小売店などの立地も進んでいます。

地域産業の競争力を高めるとともに、企業立地や産業基盤の充実、人材確保、起業・創業支援、DX推進に加え、新たなビジネスモデルや新産業の創出を促進し、暮らしを支える経済の力を維持・発展させる必要があります。

長田野工業団地従業員数、工業出荷額



福知山市の民営事業所数及び従業者数



出典：産業課

キーワード

商工振興　工業団地　賑わい創出　雇用創出

施策

施策①　地域産業の持続的な発展と競争力強化

経営基盤強化、AIやデジタル技術の活用による生産性向上・省力化、事業承継の円滑化、起業・創業支援、新産業の創出を進めるとともに、企業が成長し、働く人が安心して働き続けられる福知山をつくることで、地域産業の競争力強化と持続的な発展につなげます。

商店街の自発的な賑わい創出の取組に対する支援のほか、福知山商工会議所や福知山市商工会などが実施する商工振興の取組に対する支援を行い、官民連携で活気ある地域をつくります。

施策②　企業立地と産業基盤の充実

長田野工業団地やアネックス京都三和、福知山IC周辺の立地特性を生かし、工業団地の機能充実を進めるとともに、高付加価値産業の集積を促進することで、雇用創出と地域産業の基盤強化につなげます。

関連計画

○長田野工業団地利活用増進計画
○福知山市創業支援事業計画
○導入促進基本計画

みんなで取り組むこと

○できるだけ地元のお店で買い物や食事をしよう。
○地元のお店をどんどん紹介しよう。
○みんなでまちの『推し活』商品をつくろう。

#魅力をアピール　#楽しくチャレンジ　#やってみたいにエールを

施策分野

2　観光

成果指標		現状値	目標値(R13)
	観光消費額	20億円(R7)	29億円

現状と課題

福知山城、大江山、地域の食、歴史文化、自然、体験型コンテンツなど、市内には多様な観光資源があります。一方で、それらの資源の相互連携、周遊導線の提示、土産物購入拠点の不足等、観光消費や滞在時間、市内周遊の拡大にはなお課題があります。人口減少社会において交流人口を増やすことは、地域の活力や誇りを高めることにもつながります。

今後は、官民連携で観光資源を磨き上げ、デジタル技術も活用しながら、誘客、滞在、消費拡大、地域内周遊につなげることが求められます。

観光消費額(億円)



観光入込客数(万人)



出典：商業観光課

キーワード	福知山城　観光消費　観光資源　スポーツツーリズム

施策

施策①　福知山城を起点とした観光資源の磨き上げと市内周遊の促進

福知山城などを中心に地域に多数存在する歴史、文化、自然や食などの磨き上げを行うとともに、新たな地域資源の掘り起こしを行います。

また、福知山を経由し、周辺有名観光地を訪れる多くの観光客をターゲットに、福知山への新たな流れをつくり、北近畿一円の観光地と連動し、観光の拠点化を図るとともに、「訪れて楽しんでもらう」まちをめざします。

施策②　官民連携による誘客・滞在・消費拡大の推進

福知山観光誘客促進会議参画組織を中心とした事業者や地域と連携し、宿泊・食・体験・イベントやスポーツ大会などのコンテンツを、効果的なプロモーションと組み合わせた観光振興を進め、誘客、滞在時間の延長、観光消費額の拡大につなげます。

関連計画	―

みんなで取り組むこと

○福知山城や地域の自然、食、イベントなど、お気に入りの景色やお店をSNSで発信しよう。
○市外から来た人に、福知山のおすすめの場所や楽しみ方を紹介してみよう。

＃魅力をアピール　＃楽しくチャレンジ

施策分野

3　農業

成果指標

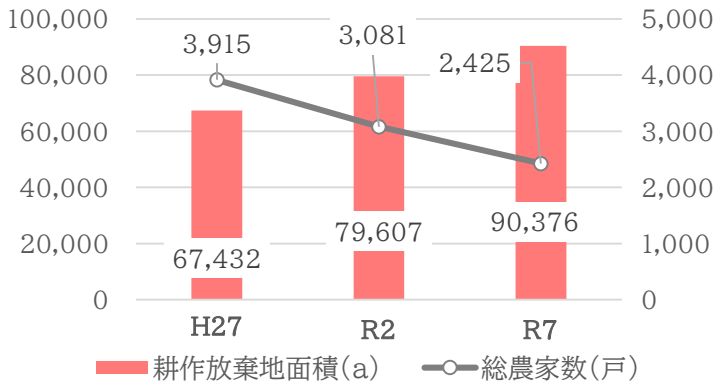
農業産出額	現状値	目標値(R13)
	66.6億円(R6)	68億円

現状と課題

本市の農業は、由良川流域や中山間地域などの地域特性を生かした農産物の生産を担うとともに、農地の保全を通じて景観形成や防災、地域コミュニティの維持にも寄与しています。一方で、担い手不足や高齢化、耕作放棄地の増加、生産コストの上昇に加え、気候変動による高温や豪雨などの影響も深刻化しています。

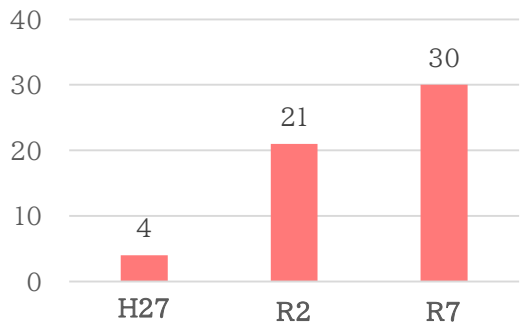
今後は、新規就農者支援、農地の集積・集約化、高付加価値化に加え、福知山産農産物が地域内外で選ばれるビジネスモデルへの転換、法人化や組織経営を推進し、農村の多面的機能を維持し、持続可能で収益性の高い農業をめざします。

耕作放棄地面積と総農家数



出典：耕作放棄地面積（福知山市水稲共済細目書）
総農家数（農林業センサス）

認定新規就農者数(累計)(人)



出典：農業振興課

キーワード　新規就農者支援　スマート農業　鳥獣被害　法人化　農地の集積・集約化

施策

施策①　地域農業と農地を守る持続可能な農業の推進

担い手の確保と、地域農業を担う法人・組織経営体の育成、農地の利用集積・集約化、農業経営の基盤強化、スマート農業、新規就農者の伴走支援を進め、収益性の高い農業経営への転換を図ることで、耕作放棄地の発生を抑えながら持続可能な農業を支えます。

施策②　地域資源を生かした農村の多面的機能の維持・発揮

農産物の高付加価値化、ブランド化、販路拡大、地産地消、農地保全、鳥獣被害の軽減を進め、食料生産だけでなく、景観、防災、交流など農村が持つ多面的機能を守ります。

関連計画
- ○福知山市農業振興地域整備計画
- ○福知山千年の森づくり基本計画
- ○福知山市鳥獣被害防止計画

みんなで取り組むこと

○地域に入って草刈りに参加しよう。
○みんなで栽培、収穫を手伝おう。　○みんなで鳥獣対策をしよう。
○できるところから農作業に参加してみよう。

#ちょっとした気遣い　#楽しくチャレンジ　#やってみたいにエールを

施策分野

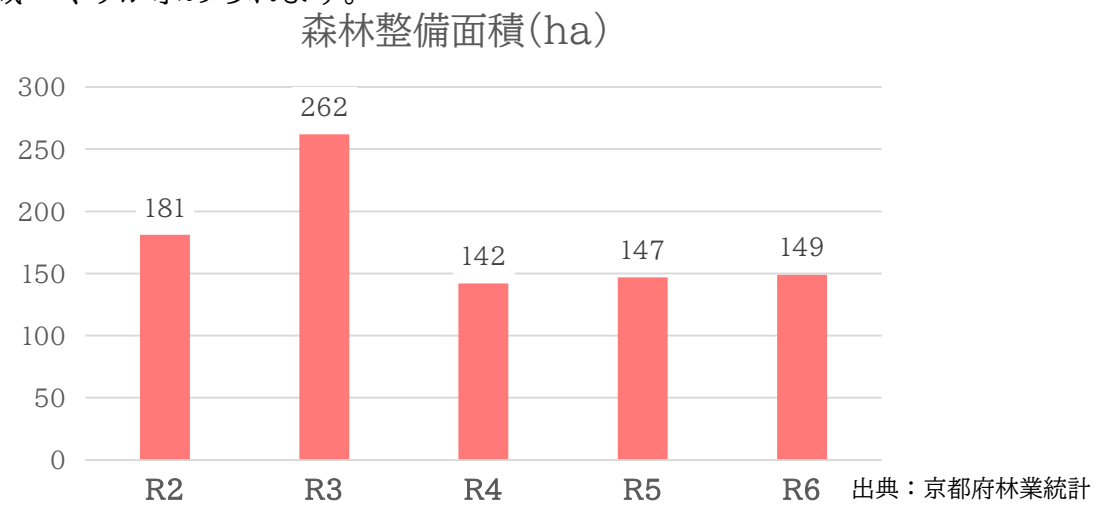
4　林業

成果指標	森林経営計画に基づき管理・集約されている民有林の割合（森林経営計画認定面積/森林計画対象民有林面積）	現状値	目標値（R13）
		6.3%（R6）	8.4%

現状と課題

森林は、水源涵養（かんよう）、土砂災害防止、地球環境保全などの公益的機能と、木材資源としての価値を有しています。一方で、本市の広大な森林を守り育てていくためには、山離れによる所有者不明森林や放置森林の増加、不明確な森林境界に加え、林業従事者の高齢化や担い手不足などの課題に対処していく必要があります。

森林境界明確化や林業のスマート化を進め、循環型の森林経営・森林保全・地域産木材の利用を図ることにより、森林の有する多面的機能の発揮と持続可能な地域づくりが求められます。



出典：京都府林業統計

キーワード　森林整備　地域産木材　治山対策

施策

施策①　循環型の森林整備と森林資源の活用促進

木を「伐って、使って、植えて、育てる」というサイクルを適切に回すため、森林境界明確化と官民連携による循環型森林整備を市内全域へ拡大し、地域産木材の利用促進、林業の魅力発信などによる担い手確保や先進技術を活用した林業のスマート化に取り組み、森林資源の循環利用と林業事業体の体制強化を図ります。

施策②　森林保全と治山による災害に強い地域づくり

森林及び林道の適正管理、治山対策を進めることで、近年の気候変動で激甚化する災害リスクを軽減し、森林所有者の負担にも配慮しながら災害に強い地域をつくります。

関連計画
- ○福知山市森林整備計画
- ○福知山市循環型森林ビジョン
- ○福知山市国土強靱化地域計画
- ○福知山市森林経営管理意向調査実施計画

みんなで取り組むこと

○森や里山の大切さを知り、森林保全や里山活動に関心を持ってみよう。
○地域の木材や森林資源を使った取組を応援しよう。

#魅力をアピール　#楽しくチャレンジ　#やってみたいにエールを

施策分野

5　脱炭素

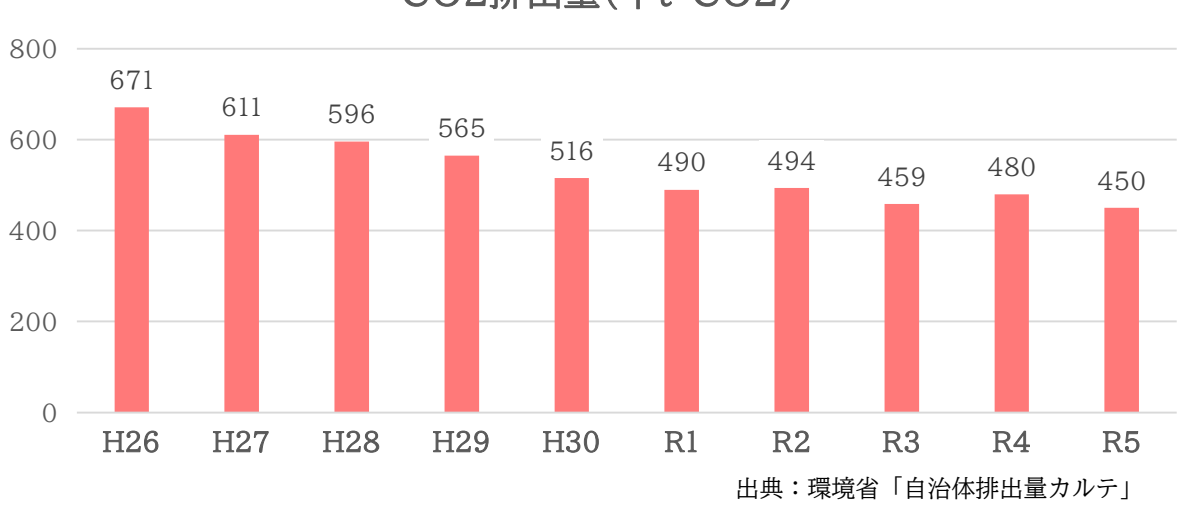
成果指標

市域の温室効果ガス排出削減率	現状値	目標値(R13)
	33.6%(R5)	51.6%

現状と課題

気候変動による災害リスクや生活環境への影響が顕在化する中、脱炭素の取組は地域の持続性に関わる重要課題です。省エネルギーや再生可能エネルギーの導入を進める必要がありますが、地域環境や景観、防災との調和も求められます。また、市として効果やメリットを発信し、家庭、事業者、行政がそれぞれの立場で温室効果ガス削減に取り組むことが重要です。

今後は、エネルギー使用量や再エネ導入状況を踏まえ、市民や事業者の日常の行動や選択の変化につなげ、地域ぐるみで脱炭素を進めることが課題です。



出典：環境省「自治体排出量カルテ」

キーワード　脱炭素　再生可能エネルギー　省エネルギー　温室効果ガス削減　地産地消

施策

施策①　再生可能エネルギーの活用と省エネルギーの推進

2050年カーボンニュートラル実現に向け、豊かな自然環境を生かした再生可能エネルギーの導入と地産地消を進めます。あわせて市民・事業者と協働で省エネルギー化を図り、脱炭素と暮らしやすさが両立する持続可能なまちづくりをめざします。

施策②　市民・事業者・地域と進める脱炭素まちづくりの推進

国の「脱炭素先行地域」選定を好機とし、エネルギーを地域で生み出し地域で使う先進的な取組を展開します。そこから得た知見を生かし、市民の暮らし方や事業者の事業活動における脱炭素の実践を促し、地域ぐるみの脱炭素まちづくりを推進します。

関連計画
- ○福知山市エネルギー・環境基本計画
- ○脱炭素先行地域計画提案書

みんなで取り組むこと

- ○日々の暮らしの中で省エネを実践しよう。
- ○身近な再生可能エネルギーを活用しよう。
- ○地域の環境や防災と調和したエネルギーを導入しよう。
- ○脱炭素について学び、行動の輪を広げよう。
- ○環境に配慮した事業活動を進めよう。

#楽しくチャレンジ　#やってみたいにエールを

施策分野

1　道路

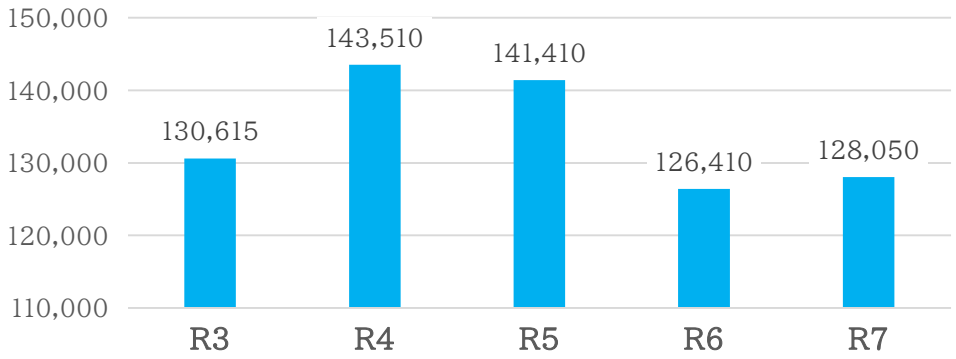
成果指標		現状値	目標値(R13)
	早期措置段階(判定Ⅲ)と判定された橋りょうのうち必要な措置を完了した割合	2巡目補修完了 57.1%(R7)	3巡目補修完了 80%

現状と課題

道路・橋りょう・トンネルなどのインフラは、市民生活、産業活動、観光、災害時の避難・救援を支える重要な基盤です。北近畿の交通結節点である本市では、市街地と周辺地域をつなぐ道路ネットワークの維持が、通勤・通学、物流、救急搬送、地域間交流に直結しています。一方で、これら施設の草刈りなどの維持管理の継続や老朽化の進行に対応するため、限られた財源の中で長寿命化を図ることが課題です。

また、暮らしを支えるため、安全で持続可能な道路基盤の確保と、災害時にも機能する道路ネットワークの構築が必要です。

市管理道路等の維持補修に要した事業費の推移(千円)



【注記】市管理道路等の維持補修に係る各年度の事業費です。事業費は、損傷状況、工事内容、災害対応、資材・労務費等により変動します。

出典：道路河川課

キーワード	
	道路・橋りょう・トンネル等のインフラ　道路ネットワーク 長寿命化　都市計画道路

施策

施策①　道路の計画的な維持管理と、橋りょうの予防保全型維持管理の推進による長寿命化

道路や橋りょうなどの定期的な点検と計画的な修繕を推進することで長寿命化を図るとともに、舗装施設の損傷や老朽化への対応を的確に実施し、市民と一体となって、安心・安全で持続可能な道路環境を維持します。

施策②　暮らしと地域を支える道路ネットワークの形成

国や府の各計画と調整を図り、本市の各計画に基づいた道路の新設・改良事業を推進することで、通勤・通学、物流、観光、そして災害時の避難などを支える道路ネットワークの形成を図るとともに、歩道や通学路における危険箇所の安全対策を的確に実施し、暮らしと地域を支える安心・安全な道路環境の整備に努めます。

あわせて、都市計画道路の未整備区間について、道路ネットワークを強化し、将来の交通需要やまちづくりを見据えた整備を行います。

関連計画	
	○福知山市国土強靱化地域計画　○福知山市橋梁長寿命化修繕計画 ○福知山市トンネル長寿命化計画　○福知山市舗装長寿命化修繕計画 ○長田野工業団地利活用増進計画　○福知山市都市計画マスタープラン ○福知山市子どもの移動経路/通学路交通安全プログラム

みんなで取り組むこと

○道路の破損や危険な場所に気づいたら、地域や市に知らせよう。
○通学路や身近な道を、地域で見守り、安全に使える環境づくりに協力しよう。
○道路周りの草刈りや清掃活動に参加してみよう。

#ちょっとした気遣い　#楽しくチャレンジ

施策分野

2　河川

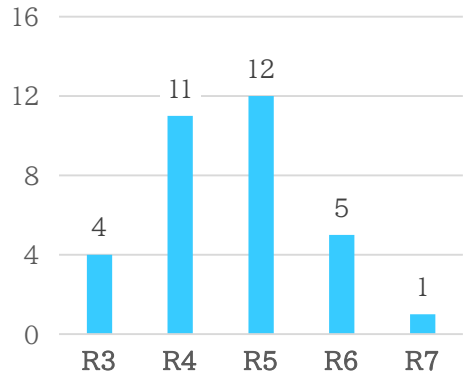
成果指標	市管理河川(準用河川･普通河川)においてしゅんせつ必要河川の実施件数	現状値	目標値(R13)
		2件(R8単年度)	計画期間内で10件

現状と課題

由良川流域に位置する本市は、これまでから水害を経験してきたまちであり、気候変動に伴う短時間強雨や大雨による水害リスクの高まりが懸念されています。河川整備や治水対策は、市民の生命と財産を守る重要な課題であり、流域全体の安全に直結します。

今後は、従来の河川整備だけでなく、由良川流域において市域を越えた連携により、流域全体で雨水を受け止める流域治水の考え方が重要です。国、府、流域自治体及び地域と連携し、水位監視、情報共有、内水対策を含めた総合的な治水対策を進め、災害に強い地域づくりにつなげる必要があります。

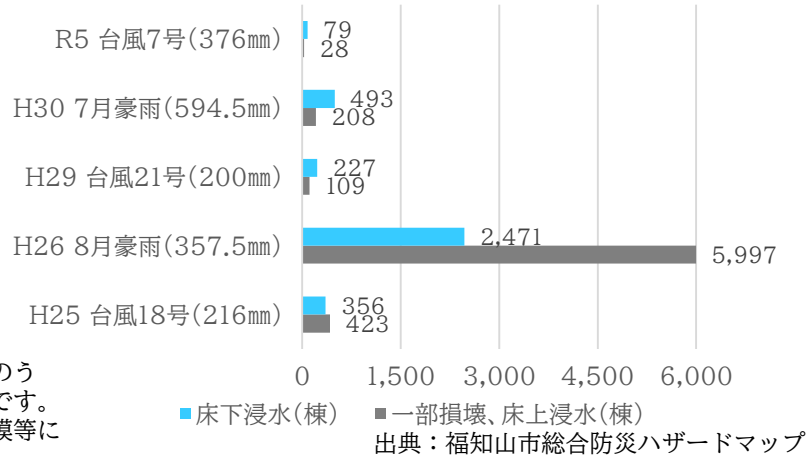
市管理河川におけるしゅんせつ実施河川数の推移(河川)



【注記】市が管理する準用河川・普通河川のうち、各年度にしゅんせつを実施した河川数です。実施数は土砂の堆積状況、緊急性、工事規模等により変動します。

出典：道路河川課

気象災害による浸水被害



出典：福知山市総合防災ハザードマップ

キーワード	由良川流域　河川整備　流域治水　内水対策

施策

施策①　由良川流域全体で取り組む河川整備の推進

【流す】

激甚化・頻発化する水害に備え、国や京都府と連携し、由良川本川の河道掘削や、本川及び支川の河川改修・しゅんせつに取り組み、流域全体の流下能力を強化します。

施策②　由良川流域全体で取り組む内水対策の推進

【排水】

内水被害の軽減に向け、排水機場・樋門などの施設について適正な操作及び維持管理を徹底するとともに、排水ポンプ車の機動的な配備と迅速な出動態勢を構築します。

【貯める・浸透させる】

調整池・調節池の適切な維持管理を行うとともに、開発事業者や土地所有者等と連携し、開発行為に伴って増加する雨水を一時的に貯留する施設の整備や透水性舗装、雨水浸透ますなどの雨水浸透施設の導入を地域の地形や地質、地下水等への影響に配慮しながら促進し、開発区域から河川等への流出量を抑え、急激な水位上昇と浸水リスクの低減を図ります。

関連計画	○福知山市国土強靱化地域計画 ○福知山市都市計画マスタープラン ○立地適正化計画

みんなで取り組むこと

○大雨の前に、水路や側溝の詰まりに気をつけよう。
○川や水辺の草刈りや清掃活動に参加してみよう。

#ちょっとした気遣い　#楽しくチャレンジ

施策分野

3　上下水道

成果指標

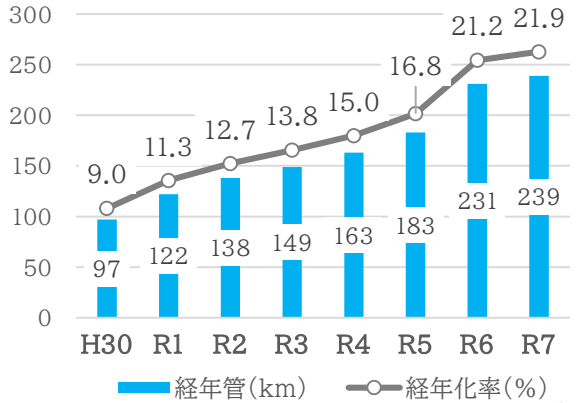
	現状値	目標値(R13)
上下水道管路の耐震化率	水道46.2%(R7) 下水道31.4%(R7)	水道55.1% 下水道35.0%

現状と課題

上下水道は、衛生的で安全な暮らしを支える重要インフラであるものの、あたり前に利用できるがゆえに危機感を感じにくいですが、今後、ヒト（担い手不足）・モノ（施設や管路の老朽化）・カネ（人口減少による料金等の減収）という課題はさらに深刻化していきます。また、由良川流域に位置し水害リスクも抱える本市において、災害時の機能確保も課題となっていることから、上下水道施設の安定稼働は、市民生活や事業活動の継続に直結することとなります。

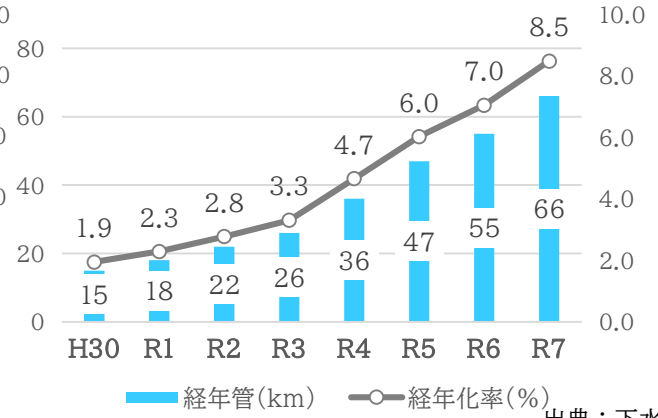
今後は、計画的な施設や管路の更新・耐震化、老朽化対策、効率的な経営を進めるとともに、災害時にも必要な機能を維持できる上下水道基盤を整える必要があります。

【水道】経年管(40年以上)の延長増加



出典：水道課

【下水道】経年管(50年以上)の延長増加



出典：下水道課

キーワード

上下水道　管路の更新・耐震化　避難所の機能確保
官民連携　広域連携

施策

施策①　安定した上下水道サービスの提供

老朽化する上下水道施設や管路の計画的な更新と適切な維持管理、水の安全は市がしっかりと責任を持ちつつ、民間の創意工夫を活用する官民連携による効率的な経営を進めるとともに、施設の運転などを近隣市町と共同で発注する広域連携も視野に入れながら、人口減少下でも安全な水と衛生的な生活環境を安定的に提供します。

施策②　災害に強い上下水道基盤の整備

災害に強く持続可能な上下水道システムの構築をめざし、計画的な施設や管路の更新・耐震化による非常時の機能確保を進め、避難所や医療施設などの重要施設が災害時にも機能する上下水道基盤を整えます。

関連計画

- ○福知山市国土強靭化地域計画
- ○福知山市水道事業経営戦略
- ○福知山市下水道事業経営戦略
- ○福知山市水道事業ビジョン
- ○福知山市下水道ビジョン
- ○福知山市上下水道耐震化計画

みんなで取り組むこと

○大切な水を無駄にしないため、宅内の水道をこまめに点検し、水漏れはすぐに修理しよう。
○節水や油などを流さないなど、上下水道を大切に使う暮らし方を心がけよう。
○災害時の断水やトイレ対策について、家庭や地域で備えておこう。

#ちょっとした気遣い　#楽しくチャレンジ

施策分野

4　公共交通

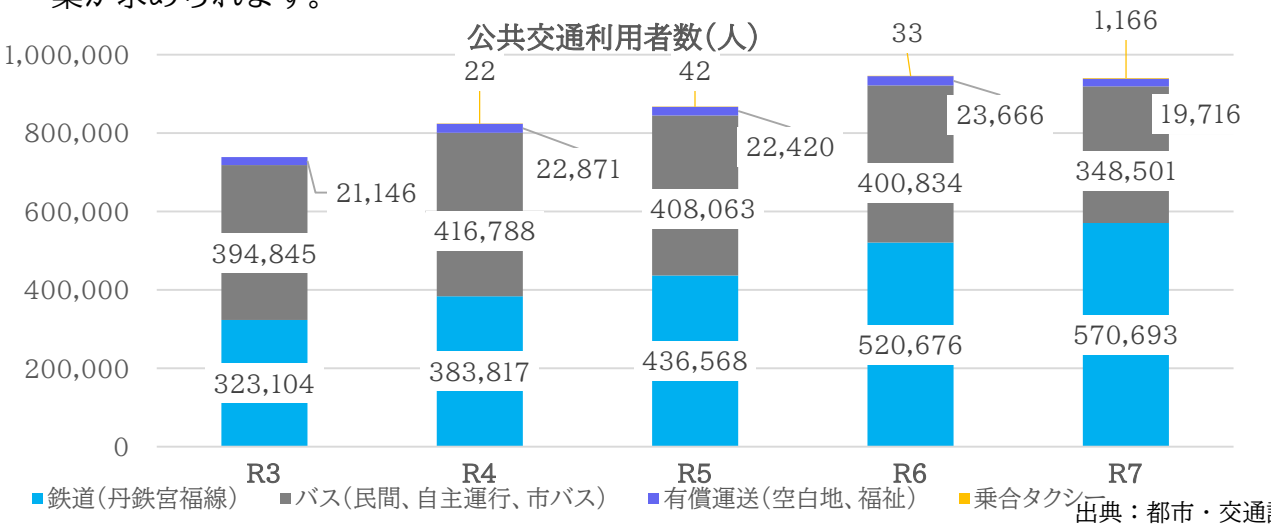
成果指標

	現状値	目標値(R13)
日常的な通勤･通学･買い物･受診の移動手段の確保が困難な人の割合	15.6%(R7)	10%

現状と課題

鉄道やバスをはじめとした公共交通は、通勤・通学、通院、買い物等を支える生活基盤です。一方で、人口減少やマイカー中心の移動実態のさらなる進行による利用減少、運転手不足により、路線やサービスの維持が難しくなっており、学生、高齢者、障害のある人などマイカーを利用することが困難な場合の移動手段の確保も課題です。

今後は、地域ごとの人口構成、移動需要、利用状況を踏まえ、鉄道、バス、デマンド交通、福祉的移動支援をはじめとしたあらゆる輸送資源を組み合わせる必要があります。誰もが必要な移動を確保できる、持続可能な交通体系の構築が求められます。



出典：都市・交通課

キーワード

公共交通　MaaS　モビリティ

施策

施策①　持続可能で利便性の高い公共交通ネットワークの形成

鉄道をはじめとした都市間・拠点間の移動手段の維持及び利便性向上に向けた取組を進めます。

少子高齢化、人口減少などの社会環境の変化や、市民の移動ニーズの変化に対応するため、多様な交通体系の組み合わせによる効率的で利便性を確保した交通体系の形成をめざします。

施策②　ICT等を活用した公共交通の利便性・生産性の向上

ICTやIoTを活用し、公共交通の利便性と生産性の向上を図ります。MaaSによるシームレスな移動やキャッシュレス決済、スマートチケットなどの利用者の利便性向上を検討するとともに、事業者の生産性向上として、IoTによる安全管理、ビッグデータでの移動可視化、AI配車や自動運転など次世代モビリティの導入可能性の検討を進めます。

関連計画

○福知山市国土強靱化地域計画
○福知山市地域公共交通計画

みんなで取り組むこと

○通勤・通学・買い物・お出かけでマイカー以外の移動手段も意識して利用してみよう。

#楽しくチャレンジ　#やってみたいにエールを

施策分野

5 居住基盤

成果指標

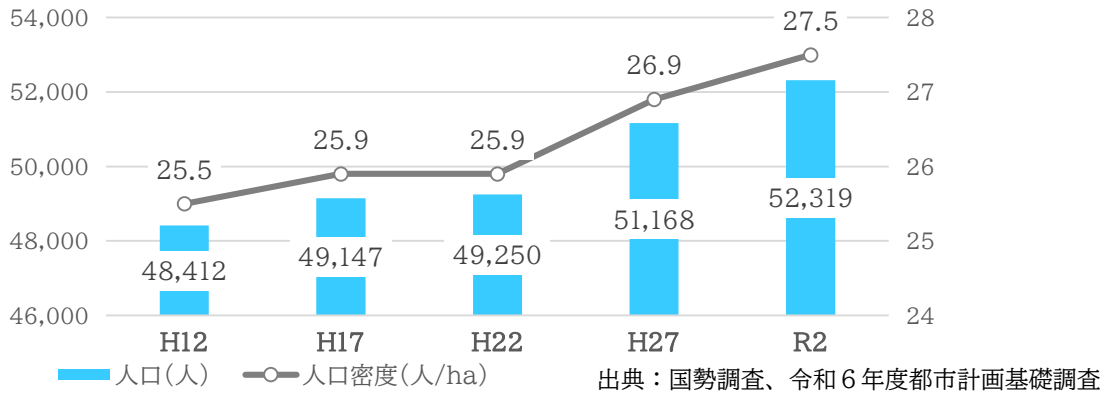
居住誘導区域内の人口密度	現状値	目標値(R13)
	35人/ha(R2)	35人/ha

現状と課題

安全で暮らしやすい居住環境を確保するためには、地域特性に応じた適正な土地利用、公園や公営住宅などの生活基盤の維持が重要です。市街地から中山間地域まで多様な地域を持つ本市では、人口減少や災害リスクへの対応などにより、まちの機能を効率的に維持することが課題となっています。また、計画的な土地利用や災害時の迅速な復旧・復興を支えるためには、地籍調査をはじめとする地域特性に応じた適正な土地利用・活用が求められています。

今後は、誰もが安心して住み続けられるよう、土地利用や住環境を計画的に整え、生活サービス機能と居住を誘導区域に集約し、各拠点をネットワークで結ぶ持続可能なコンパクトなまちづくりを進めるとともに、公園や公営住宅を含む生活空間の質を高めていく必要があります。

市街化区域人口･人口密度



出典：国勢調査、令和６年度都市計画基礎調査

キーワード　土地情報の整備　公園　公営住宅　地籍調査

施策

施策①　地域特性に応じた適正な土地利用

市街地と中山間地域それぞれの特性を踏まえ、住宅地の安全性や生活利便性、地域の居住環境の維持向上を図り、誰もが安心して住み続けられる地域をつくります。

人口分布や災害リスク、地域特性を踏まえた適正な土地利用を進めるとともに、地籍調査などにより、計画的で安全なまちづくりを支えます。

施策②　公営住宅・公園など誰もが暮らしやすい住環境の整備

公営住宅は、福知山市公営住宅等長寿命化計画に基づき、計画的な建替えや改善を図り、住環境の向上に努めます。

都市公園は、身近な憩いの場から広域的なレクリエーション、防災拠点に至るまで多面的な役割を担っています。公園の機能が最大限に発揮されるよう、効率的かつ効果的な管理・運営を市民と一体となって推進します。あわせて、市民が安全に、安心して利用できる環境の維持・向上に努めます。

関連計画

- ○福知山市国土強靱化地域計画
- ○福知山市建築物耐震改修促進計画
- ○福知山市都市計画マスタープラン
- ○福知山市公営住宅等長寿命化計画
- ○福知山市公園施設長寿命化計画
- ○立地適正化計画

みんなで取り組むこと

○公園や身近な公共空間をきれいに使おう。
○所有する土地の境界や利用状況について関心を持ち、家族で情報を共有しておこう。

#ちょっとした気遣い　#楽しくチャレンジ

施策分野

1　防災・消防

成果指標

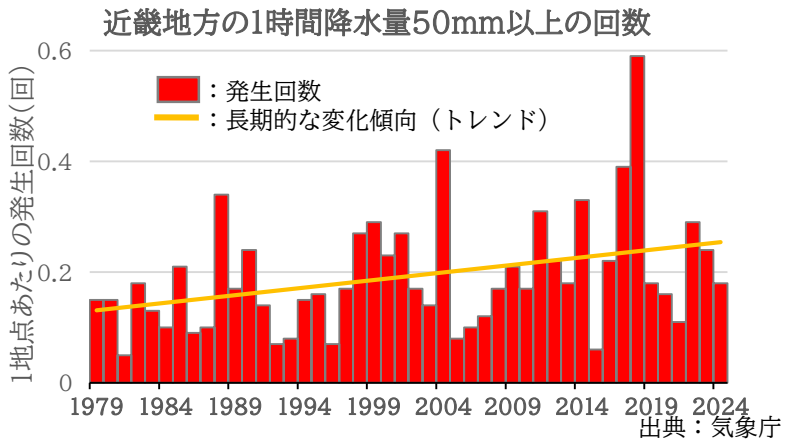
	現状値	目標値(R13)
家庭で必要物資の備蓄を行っている割合	52.33% (R7内閣府調査から推計)	75%
心肺停止傷病者へのバイスタンダーによる応急手当実施率	68.7%(R7)	75%

現状と課題

近年、地球規模の気候変動の影響で、災害が激甚化・頻発化する中、由良川の中・下流部に位置する本市は、由良川の氾濫や内水氾濫による水害、中山間地の土砂災害への備えに加え、本市周辺に複数存在する活断層に起因する地震への備えも喫緊の課題となっています。

そのような中、市民には「自らのいのちと生活を守る」という「自助」の考え方を基本とした「事前の減災対策」と「平時からの物資の備蓄」の徹底に加え、「共助・公助」と連携した地域の防災・減災力の向上を推進することが求められており、行政には住民の避難行動を支援する「避難所の環境改善」や「公的備蓄物資」を計画的に整備する体制の構築に加え、大規模災害発生時における「広域応援の受入体制」を強化することが求められています。

また、社会生活の変化や技術革新に伴う新たな災害リスクの出現により、消防が行う災害現場対応は、より「複雑・多様化」しており、災害に的確に対応することができる「消防体制の高度化」と「消防力の強化」が喫緊の課題となっています。



出典：気象庁

キーワード　自助・共助・公助　地域防災力　自主防災組織　地域版防災マップ　個別避難計画　消防・救急　広域応援受入体制

施策

施策①　災害に強い地域防災体制の構築

水害、土砂災害、地震などへの備えとして、市民一人ひとりへの災害リスクの周知や共助の担い手育成の支援を進め、地域版防災マップ、個別避難計画に基づく訓練の実施、防災アプリの普及促進による情報発信、避難所の環境整備、自主防災組織の育成・強化を行い、「自助・共助・公助」が連携した実効性のある防災体制を構築します。

施策②　いのちと暮らしを守る消防・救急体制の充実

消防活動の高度化を図り、災害発生時の消防本部・消防団の初動対応力の強化を図るとともに、大規模災害時の情報収集、現場指揮及び広域応援受入体制を強化します。あわせて火災予防の充実、応急手当の普及啓発により災害の被害抑制、未然防止を図ります。

関連計画
○福知山市国土強靱化地域計画　○福知山市地域防災計画
○福知山市国民保護計画　○福知山市大規模災害対応力強化指針

みんなで取り組むこと

○身の回りのハザードリスクや避難所を確認し、必要な物資を備蓄しよう。
○地域の防災訓練や救急講習に参加してみよう。
○住宅用火災警報器の点検やコンセント周りの清掃など、日常的に火災予防を実践しよう。
○消防団や自主防災の活動に関心を持ち、地域で支え合おう。

#ちょっとした気遣い　#楽しくチャレンジ　#やってみたいにエールを

施策分野

2　健康づくり

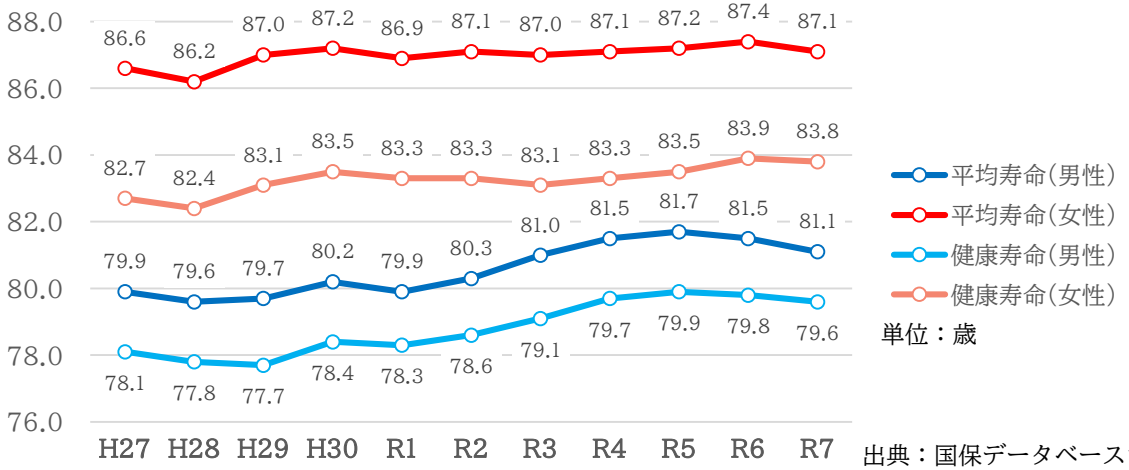
成果指標

	現状値	目標値(R13)
健康寿命(男性・女性)	79.6歳(男性)(R7) 83.8歳(女性)(R7)	80.2歳(男性) 84.2歳(女性)

現状と課題

本市では、市民一人ひとりが希望や生きがいを持ち、健やかで心豊かに暮らせるまちをめざしてきました。特に、高血圧対策や運動習慣づくりなど、生活習慣病予防を重視した取組を進めています。一方で、高齢化や単身世帯の増加による孤立化・孤独化が進行する中、健診・検診の受診促進、生活習慣病の重症化予防、フレイル予防、生きがいやこころの健康づくりの重要性はさらに高まっています。地域や職場、関係団体と連携し、市民が日常生活の中で無理なく健康づくりに取り組める環境を広げていく必要があります。

平均寿命と健康寿命の推移



出典：国保データベースシステム

キーワード　生活習慣病予防　フレイル予防　健康寿命　こころの健康づくり

施策

施策①　生涯を通じた健康づくりの推進

市民が自分の健康状態を把握し、主体的に健康づくりに取り組めるよう、健診・検診の受診促進や生活習慣病の予防、重症化予防に取り組みます。また、運動、食生活、休養、歯と口腔の健康など、日常生活の中で無理なく続けられる健康づくりを推進します。関係機関や地域、職域と連携し、ライフステージに応じて健康への関心を高め、一人ひとりが自分に合った健康づくりを実践し、継続できるよう支援します。

施策②　健康寿命を延ばす地域づくりの推進

高齢になっても住み慣れた地域でいきいきと暮らし続けられるよう、フレイル予防、介護予防、認知症予防、社会参加の機会づくりを進めます。また、地域での体操や交流の場、見守り活動などを通じて、人とのつながりの中で健康を支える環境づくりを推進します。あわせて、こころの健康づくりや相談につながりやすい体制を整え、心身の両面から市民の健康を支え、健康寿命の延伸をめざします。

関連計画

○第２次福知山市健康増進計画
○福知山市新型インフルエンザ等対策行動計画
○福知山市国民健康保険第３期データヘルス計画及び第４期特定健康診査等実施計画

みんなで取り組むこと

○健診や検診を受け、自分の健康を確認しよう。
○家族や近所の人と、散歩や体操を始めよう。

#ちょっとした気遣い　#楽しくチャレンジ　#やってみたいにエールを

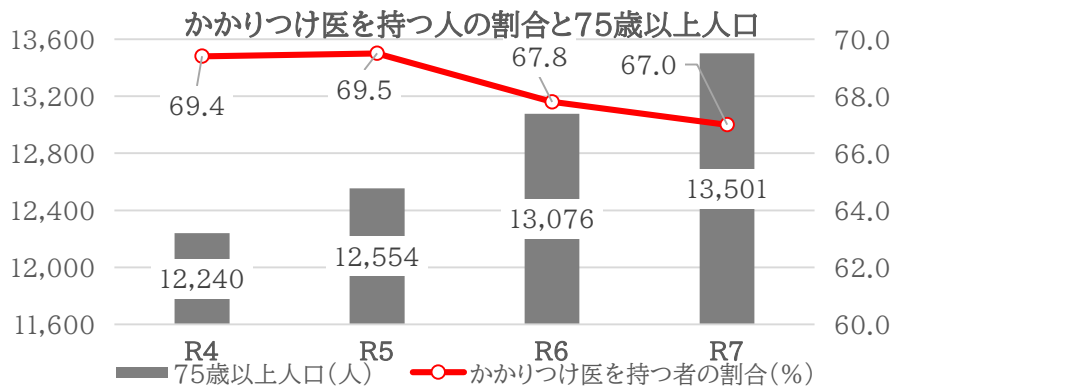
施策分野

3　医療

成果指標		現状値	目標値(R13)
	かかりつけ医を持つ者の割合	67%(R7)	69.5%

現状と課題

福知山市民病院は、地域救命救急センター、地域がん診療連携拠点病院などの指定を受け、京都府北部地域の基幹病院として政策医療を提供しています。また大江分院は地域密着型病院として在宅医療を推進し、本院の後方支援病院や在宅医療を担う人材育成の拠点としての役割を担っています。一方で、市街地から中山間地域まで多様な地域特性がある中、どこに住んでいても必要な医療につながる体制が求められます。高齢化に伴う慢性疾患や医療・介護の複合ニーズの増加、医療人材不足を背景に、かかりつけ医をはじめとする初期診療機能の維持や、急性期治療後に回復期・慢性期・在宅医療へ円滑に移行できる受け皿の確保が課題です。



出典：75歳以上人口　総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数調査」（各年1月1日時点）
かかりつけ医を持つ人の割合　経営戦略課「市民アンケート」

キーワード	かかりつけ医　地域医療　医療・介護・福祉の連携

施策

施策①　持続可能な地域医療提供体制の確保

京都府が策定する新たな地域医療構想を踏まえ、診療所と病院がそれぞれの役割を発揮し、かかりつけ医による初期診療から救急・専門医療まで必要な医療につながる体制を確保します。あわせて、看護師をはじめとする医療従事者の確保に努めるとともに、急性期治療後の患者が在宅医療等へ円滑に移行できるよう各分野の横断的な連携を進めます。

施策②　地域で安心して暮らし続けるための医療・介護・福祉連携の強化

「地域包括支援センターよりそい窓口」を中心に、医療・介護・生活支援が一体となった地域包括ケアシステムを推進します。また「京あんしんネット」を活用した多職種間の情報共有を推進するとともに、多職種でアドバンス・ケア・プランニングの普及を図り、人生の最期まで本人が望む形で安心して暮らせる支援体制を構築します。

関連計画	○公立病院経営強化プラン ○第11次福知山市高齢者保健福祉計画（第10期福知山市介護保険事業計画）

みんなで取り組むこと

○かかりつけ医を持とう。
○自分らしい将来について家族や大切な人と話してみよう。

#ちょっとした気遣い　#楽しくチャレンジ

施策分野

4 地域福祉

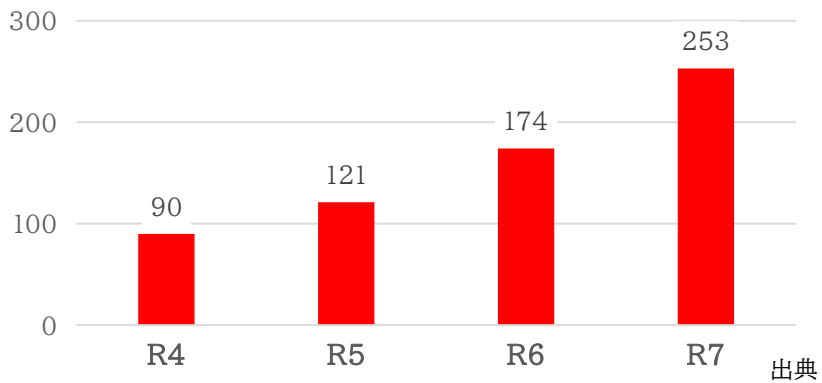
成果指標	困ったときに相談できる人又は窓口がない市民の割合（減少が目標）	現状値	目標値（R13）
		21.8%（R4）	11%

現状と課題

高齢化の進行や家族形態の多様化が進む中、生活困窮、孤立、8050問題、ひきこもり、頼れる身寄りがないなど制度ごとの支援だけでは対応が難しい困りごとを抱える世帯が増えています。また、ＤＸが急速に進む中、情報格差も課題となっています。一方で地域のつながりの希薄化、本人が支援を希望されないなど、家族や地域での支え合いが難しくなっています。

今後は、多様化・複雑化する生活課題に対し、住民同士が気づき、見守り、支え合える地域づくりの促進と、地域と関係機関や行政が連携した居場所づくりや生活支援の推進、デジタルとアナログが調和する社会の推進が求められます。

複雑化･複合化する課題を抱える人の対応件数（件）



出典：社会福祉課

キーワード	生活困窮　孤立・孤独　支え合い　地域共生社会

施策

施策①　互いに支え合い安心して暮らせる地域共生社会の推進

年齢、性別、障害の有無、家族形態などにかかわらず、誰もが地域で安心して暮らせるよう、身近な支え合い、居場所づくり、地域活動への参加を広げます。

施策②　複雑化・複合化する困りごとに対応する包括的な相談支援の充実

生活困窮、孤立、8050問題、ひきこもり、頼れる身寄りがないなど複合的な困りごとに対応するため、制度や分野を越えた包括的な相談体制と関係機関の連携による支援の充実をめざします。

施策③　地域ぐるみの見守りと生活支援の充実

独居高齢者や障害のある人など、支援が必要な人の見守り、安否確認、買い物や移動の支援など住民主体の取組を、行政が関係機関と連携して伴走支援することで暮らしの安心を守ります。

関連計画	○第４次福知山市地域福祉計画（重層的支援体制整備事業実施計画） ○第２次福知山市自殺対策計画 ○第11次福知山市高齢者保健福祉計画（第10期福知山市介護保険事業計画） ○福知山市障害者計画　○福知山市国土強靱化地域計画

みんなで取り組むこと

○近所の人に、日頃から声をかけてみよう。
○地域の活動やボランティアに参加してみよう。
○悩んでいることを、誰かに相談してみよう。

#ちょっとした気遣い　#楽しくチャレンジ

施策分野

5 高齢者福祉

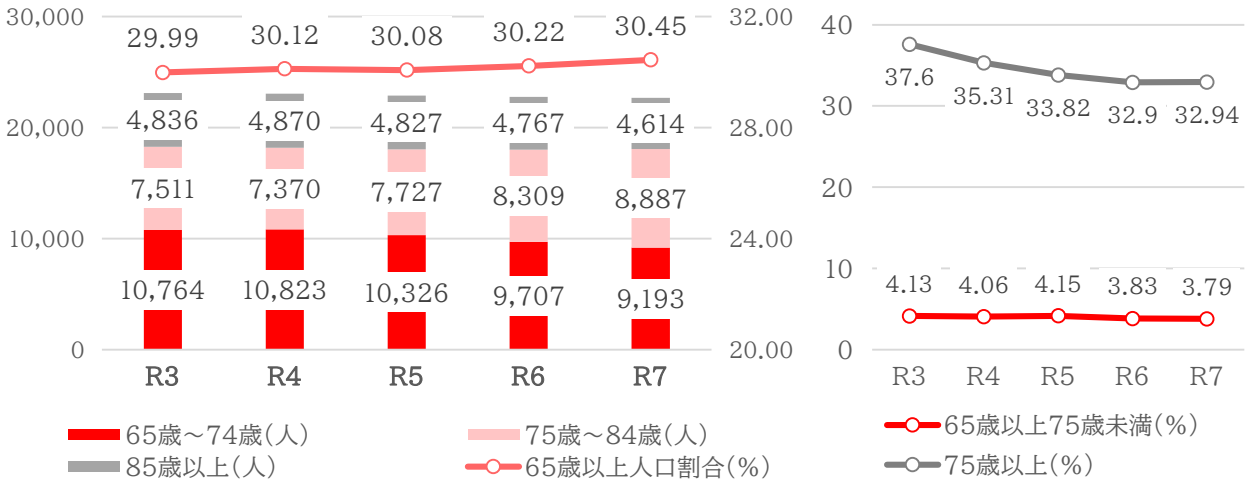
成果指標	要介護認定率(前期高齢者･後期高齢者)	現状値	目標値(R13)
		3.8%/32.9%(R7)	3.5%/30.1%

現状と課題

少子高齢化のさらなる進行、支援やケアの必要性が高まる85歳以上高齢者の増加が見込まれる中、誰もが住み慣れた地域で自分らしく暮らすためには、健康寿命の延伸や社会参加の促進、認知症支援、医療・介護連携による良質なサービスの提供が欠かせません。

今後は、これらを一体的に提供する「地域包括ケアシステム」を深化させ、専門人材の確保やアドバンス・ケア・プランニングの推進、地域の支え合い体制を強化していくことが重要です。

高齢者数(65歳以上、75歳以上、85歳以上)



出典：総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数調査」（各年1月1日時点）

要介護及び要支援認定率

出典：高齢者福祉課

キーワード	独居高齢者　介護予防　認知症支援　地域包括ケアシステム 地域の支え合い　終活

施策

施策①　高齢者の介護予防・社会参加と生きがいづくりの推進

体操教室など通いの場づくりを進め、健康寿命延伸や介護予防を進めるとともに、就労や地域でのボランティア活動など高齢者が担い手となる地域を支える活動を支援し、高齢者の社会参加や生きがいづくりを進めます。

施策②　高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らせる地域包括ケアの推進

医療・介護の連携による在宅療養への対応、認知症の理解促進や支援体制の充実、専門人材の確保による持続可能な介護サービスの提供体制を整えます。また、複雑化・複合化する高齢者の課題に対して、包括的な相談支援体制のさらなる充実をめざします。

関連計画	○第11次福知山市高齢者保健福祉計画（第10期福知山市介護保険事業計画） ○福知山市認知症施策推進計画

みんなで取り組むこと

○高齢者が参加しやすい地域活動をつくろう。
○認知症や介護、人生の最終段階について、身近な人と話してみよう。

#ちょっとした気遣い　#楽しくチャレンジ

施策分野

6　障害者福祉

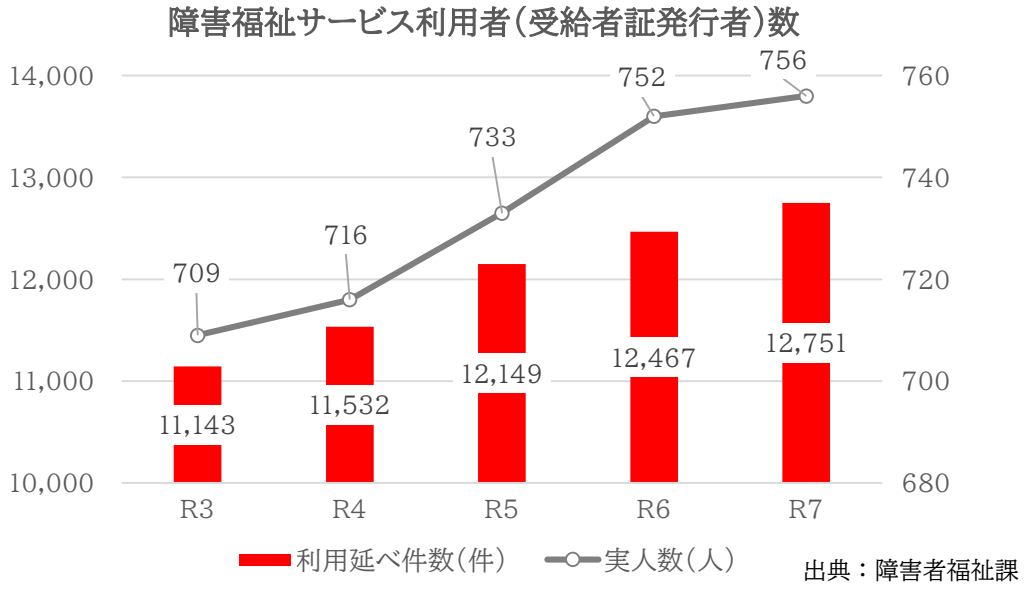
成果指標

就労系サービスの利用者数	現状値	目標値(R13)
	275人(R7)	339人

現状と課題

障害のある人が地域で安心して暮らすことができる社会の実現のために、障害や障害のある人についての理解促進、合理的配慮の推進、地域での自立生活の支援として相談支援体制の充実や社会参加の促進が課題となっています。

特に「親亡き後」の生活支援は大きな課題となっており、生涯にわたる切れ目のない支援体制の構築が必要です。



出典：障害者福祉課

キーワード

障害理解　合理的配慮　相談支援の充実　情報保障
親亡き後　就労定着支援

施策

施策①　障害のある人の地域生活の支援と自立の促進

障害に対する理解促進や多様なコミュニケーション手段による情報保障の推進など、障害のある人に対する支援の充実をめざします。

また、障害のある人が自分の意思で選択、決定し、自分らしく暮らすことができるよう相談支援の充実など、自立に向けた環境を整えるとともに、家族の高齢化や「親亡き後」も見据え、住み慣れた地域で安心して生活を継続できる支援体制の構築をめざします。

施策②　障害のある人の就労と社会参加の促進

障害のある人が社会で自立して生活するために、就労の支援や就労定着支援に取り組みます。

また、就労以外でも地域社会の中で役割を持ち、自分らしく地域の一員として安心して暮らせる体制の構築をめざします。

関連計画

○第4次福知山市地域福祉計画（重層的支援体制整備事業実施計画）
○福知山市障害者計画
○第8期福知山市障害福祉計画
○第4期福知山市障害児福祉計画
○第4期福知山市手話言語及び障害のある人の多様なコミュニケーション促進条例推進計画

みんなで取り組むこと

○困っている人に「お手伝いしましょうか」と声をかけよう。
○誰もが参加しやすい地域活動をしよう。
○手話や点字など、障害のある人とコミュニケーションをとる方法を学ぼう。

#ちょっとした気遣い　#楽しくチャレンジ　#やってみたいにエールを

施策分野

7 防犯・交通安全・生活安全

成果指標

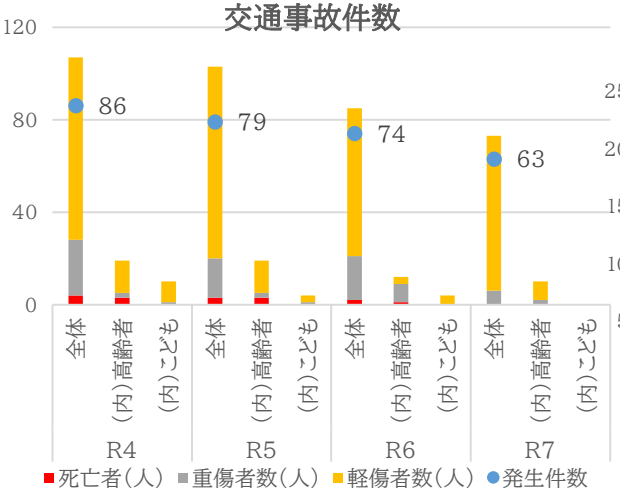
	現状値	目標値(R13)
人口10万人当たり刑法犯認知件数	451.3件(R7)	400件
年間交通事故死亡者数	0人(R7)	0人
「管理されておらず周辺に悪影響を及ぼしている空き家」として市に相談があった年間件数	29件(R7)	25件

現状と課題

社会環境の変化や人口減少・高齢化に伴い、市民生活を取り巻く課題は多様化しています。特殊詐欺や交通事故などの防犯・交通安全上の課題に加え、管理不全空家や不法投棄、騒音など、生活環境の保全も重要な課題となっています。

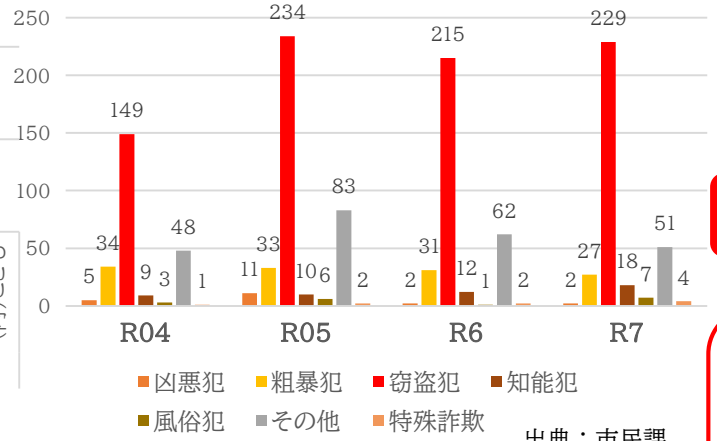
誰もが安全・安心で快適に暮らせる地域環境を確保するため、市民、自治会、事業者、行政、警察などが緊密に連携し、犯罪・事故の未然防止や生活環境の保全・美化を進めていくことが求められます。

交通事故件数



出典：京都府警察本部「交通統計」

福知山署管内の犯罪発生件数(件)



出典：市民課

キーワード

防犯　消費者安全　交通安全　空家対策　環境保全　環境美化

施策

施策①　犯罪のない安全・安心な地域づくりの推進

防犯カメラ、防犯灯の設置維持、特殊詐欺、消費者トラブル対策を進め、警察や関係機関と連携して犯罪を未然に防ぎます。

施策②　交通安全思想の普及と人優先の交通安全対策の推進

幼児から成人・高齢者に至るまで、ライフステージに応じた段階的かつ体系的な交通安全教育を推進します。

市民一人ひとりに広く交通安全思想の普及・浸透を図り交通ルールの遵守と交通マナーの実践を習慣づけるため、関係団体と相互に連携し、交通安全運動を組織的・継続的に実施します。

道路管理者、警察などの関係機関と連携し、人優先の考えのもと、交通環境の整備・交通安全対策のさらなる推進を図ります。

学校やPTAなどの関係機関と連携し、安心安全な通学路の確保を図ります。

施策③　安心して暮らせる生活環境の保全

騒音、悪臭、野焼き、不法投棄など身近な生活環境課題への対応や、管理不全の状態にある空家等の所有者へ適正管理を促すことで、快適な生活環境を守ります。

関連計画

○福知山市再犯防止推進計画　○第11次福知山市交通安全計画
○福知山市空家等対策計画　○福知山市一般廃棄物処理基本計画

みんなで取り組むこと

○人（歩行者）優先の運転を心がけよう。
○日頃から近所で声をかけあい、空家になったときに相談できる親族などを把握しておこう。
○家族や親族で「自分の家が空家になったときにどうするか」についてあらかじめ相談しておこう。
○ごみのポイ捨てをなくそう。

#ちょっとした気遣い　#楽しくチャレンジ

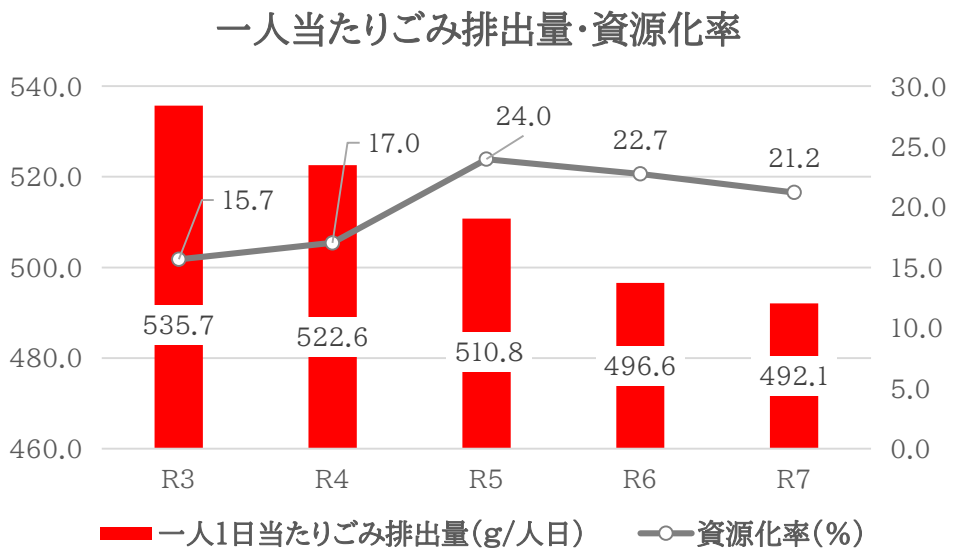
施策分野

8 循環型社会

成果指標		現状値	目標値(R13)
	一般廃棄物の資源化率	21.2%(R7)	33.0%

現状と課題

人口減少や３Ｒの取組の推進により、本市におけるごみの排出量は減少傾向にあります。そのような中、施設の老朽化が課題であり、施設規模の適正化を図り、ごみ処理施設の安定的・効率的な施設整備や運営を行うとともに新たな資源循環の取組により、循環型社会の実現を進めていく必要があります。



出典：R8：生活環境課　R3～R7福知山市一般廃棄物処理基本計画中間見直し

キーワード	こみ減量　ごみ処理体制　資源循環　環境パーク

施策

施策①　ごみの発生抑制と資源循環の促進

本市におけるごみの排出量は年々減少し、ごみの資源化率は増加傾向にあり、これを継続・拡大するため、わかりやすい市民啓発のほかリチウムイオン電池の分別収集やプラスチック使用製品ごみの再商品化など、新たな資源循環の取組を進め、資源を地域で有効に生かす循環型の暮らしを広げます。

施策②　持続可能なごみ処理体制の確保

本市のごみの中間処理を担う環境パークは、基幹的設備改良等により延命化に努めていますが、稼働から20年を超える施設となっており、長期的な観点から中間処理・最終処分体制や資源化の最適なあり方について、調査・検討を進め、将来にわたり安定して運営できる持続可能なごみ処理体制を整えます。

関連計画	○福知山市循環型社会形成推進地域計画 ○福知山市一般廃棄物処理基本計画

みんなで取り組むこと

○ごみの分別や減量、リユース、リサイクルを暮らしの中で続けよう。
○まだ使えるものを譲り合うなど、地域で資源を大切に使う工夫を広げよう。
○食品ロスダイアリーを使用するなど、食品ロスを自分ゴトとして捉えよう。

#ちょっとした気遣い　#楽しくチャレンジ　#やってみたいにエールを

1 行政改革

成果指標		参考値	目標値(R13)
	市役所で行っている業務や手続に満足している市民の割合	57.2% (他市町村において実施されたR5市民アンケートの結果)	65%

現状と課題

人口減少・少子高齢化に伴う行政需要の変化、公共施設の老朽化、物価や人件費の上昇、生成AIをはじめとするデジタル技術の進展など、行政を取り巻く環境は大きく変化しています。限られた経営資源の中で、市民ニーズや将来負担を踏まえ、市民サービスの向上や業務改善につなげることが必要です。

本市では、行政改革大綱に基づき、制度や仕組みの整備、DX推進体制の構築、連携・協働の機会拡大、人材育成制度の見直しなど、行政改革の基盤づくりを進めてきました。今後は、これらの制度や仕組みを生かし、職員一人ひとりが主体的に実践するとともに、継続的な業務改善に取り組むことで、市民サービスの向上につなげることが求められます。

行政改革大綱2022-2026で取り組んだ課題	課題の認識
行政経営・組織の観点	マネジメントの実効性の向上 ⇒組織運営の仕組みを、意思決定の迅速化や業務改善など、実際の組織運営の改善につなげる必要がある。
住民参画・住民協働の観点	連携成果の浸透と活用 ⇒多様な主体との連携機会を増やすだけでなく、事業効果の向上や新たな担い手の育成、地域課題の解決につなげる必要がある。
事業立案・業務プロセスの観点	評価結果を業務改善につなげる仕組みの定着 ⇒評価結果を、事務・事業の見直しや予算編成など、具体的な業務改善や歳出抑制・財源確保につなげる必要がある。
新技術導入・活用の観点	デジタル技術による業務改善 ⇒全職員によるデジタル技術の活用や行政データの整備・活用を、市民サービスの向上と業務改善につなげる必要がある。
職員育成・能力発揮の観点	職員の主体的な実践と能力発揮 ⇒職員一人ひとりの挑戦や学び、能力の発揮を、組織全体の力の向上につなげる必要がある。

施策

施策① 市民サービスの向上につなげる仕事の進め方改革

多様な主体との協働・共創や市民との対話を通じて、多様化、複雑化する行政課題に対応するとともに、デジタル技術やデータを活用し、市民サービスの向上と業務の効率化を図ります。

施策② 持続可能な行財政運営

事務・事業の実施や公共施設の整備・運用等の見直しに当たっては、人口減少も視野に入れつつ、市民ニーズ、利用見込み、財政や市民サービスへの影響、将来負担等を総合的に勘案し、規模や手法等を判断します。また、自主財源の充実や新たな財源の確保を進め、限られた経営資源を効果的に活用し、持続可能な行財政運営を推進します。

施策③ 人と組織の力を高める行政運営

職員の成長を支援するとともに、管理職マネジメント力を高め、挑戦と学びを後押しする組織風土や働きやすい職場環境を整えることで、人と組織の力を高めます。

関連計画	○福知山市行政改革大綱2027-2031

（３）暮らしのまんなかプロジェクト

暮らしのまんなかプロジェクト　シートの見方

プロジェクト名

SDGs 17の目標

プロジェクトに関連するSDGsの目標を表示しています。

暮らしのまんなかプロジェクト
Ⅰ　地域活動への多様な参加を広げる



課題

プロジェクトに関する本市の現状や、2040年を見据えた課題を記載しています。

課題　**地域活動の担い手不足**

自治会活動、地域行事、見守り、環境美化などの地域活動は、地域の暮らしを支える基盤です。一方、人口減少や高齢化のほか、人々の暮らし方や働き方、地域とのかかわり方に対する意識の変化などにより、自治会加入率の低下、役員の固定化、担い手不足が進み、従来どおりの方法では活動の維持が難しい地域もあります。また、地域課題が多様化・複雑化する中、行政や地域だけで対応することも困難になっています。

今後は、各地域がこれまで培ってきた取組やつながりを大切にしながら、年齢や立場、居住地などにかかわらず、多様な主体が無理なく地域活動に関わり、それぞれの経験や力を生かせる仕組みを分野横断で整える必要があります。

＜関連施策＞　年齢や立場、居住地などにかかわらず、誰もが気軽に地域活動に関われる環境を整え、地域活動に参加する人や地域を持続的に訪れる人を増やし、それぞれが自分に合った形でつながり、楽しみながら参加できる地域コミュニティを育てます。

- １－１ 市民協働 ①多様な主体が参画する地域づくりの推進
- １－１ 市民協働 ②持続可能な地域コミュニティの形成
- １－４ 多文化共生 ①外国人住民と地域社会の相互理解と協働の促進
- １－５ 移住・関係人口 ①福知山への新たな人の流れの創出
- １－５ 移住・関係人口 ②地域と多様な人材をつなぐ関係づくりの推進
- ２－１ 文化芸術 ②文化芸術活動の継承と地域活性化の推進
- ２－２ 文化財・歴史 ②文化財を生かした地域づくりの推進
- ２－３ スポーツ ②特色あるスポーツ資源を通じた交流と地域活性化の推進
- ３－４ 社会教育 ①公民館や図書館などの社会教育施設の多機能化と生涯学習活動の推進
- ３－５ 大学・高等学校 ②高校・大学と連携した人材育成と地域課題解決の推進
- ４－１ 商工業 ①地域産業の持続的な発展と競争力強化
- ４－１ 商工業 ②企業立地と産業基盤の充実
- ４－２ 観光 ①福知山城を起点とした観光資源の磨き上げと市内周遊の促進
- ４－２ 観光 ②官民連携による誘客・滞在・消費拡大の推進

重点課題への対応

地域活動への多様な参加を広げる

51

関連施策
プロジェクトの課題に対応する各分野の施策を記載しています。

Ⅰ　地域活動への多様な参加を広げる

課題

地域活動の担い手不足

自治会活動、地域行事、見守り、環境美化などの地域活動は、地域の暮らしを支える基盤です。一方、人口減少や高齢化のほか、人々の暮らし方や働き方、地域とのかかわり方に対する意識の変化などにより、自治会加入率の低下、役員の固定化、担い手不足が進み、従来どおりの方法では活動の維持が難しい地域もあります。また、地域課題が多様化・複雑化する中、行政や地域だけで対応することも困難になっています。

今後は、各地域がこれまで培ってきた取組やつながりを大切にしながら、年齢や立場、居住地などにかかわらず、多様な主体が無理なく地域活動に関わり、それぞれの経験や力を生かせる仕組みを分野横断で整える必要があります。

＜関連施策＞　年齢や立場、居住地などにかかわらず、誰もが気軽に地域活動に関われる環境を整え、地域活動に参加する人や地域を持続的に訪れる人を増やし、それぞれが自分に合った形でつながり、楽しみながら参加できる地域コミュニティを育てます。

- **１－１ 市民協働**
  ①多様な主体が参画する地域づくりの推進
- **１－１ 市民協働**
  ②持続可能な地域コミュニティの形成
- **１－４ 多文化共生**
  ①外国人住民と地域社会の相互理解と協働の促進
- **１－５ 移住・関係人口**
  ①福知山への新たな人の流れの創出
- **１－５ 移住・関係人口**
  ②地域と多様な人材をつなぐ関係づくりの推進
- **２－１ 文化芸術**
  ②文化芸術活動の継承と地域活性化の推進
- **２－２ 文化財・歴史**
  ②文化財を生かした地域づくりの推進
- **２－３ スポーツ**
  ②特色あるスポーツ資源を通じた交流と地域活性化の推進
- **３－４ 社会教育**
  ①公民館や図書館などの社会教育施設の多機能化と生涯学習活動の推進
- **３－５ 大学・高等学校**
  ②高校・大学と連携した人材育成と地域課題解決の推進
- **４－１ 商工業**
  ①地域産業の持続的な発展と競争力強化
- **４－１ 商工業**
  ②企業立地と産業基盤の充実
- **４－２ 観光**
  ①福知山城を起点とした観光資源の磨き上げと市内周遊の促進
- **４－２ 観光**
  ②官民連携による誘客・滞在・消費拡大の推進

重点課題への対応

地域活動への多様な参加を広げる

課題　地域防災力を支える担い手不足と気候変動による災害リスクの増大

地球規模の気候変動の影響で、災害が激甚化・頻発化する中、本市では由良川の氾濫や内水氾濫、中山間地の土砂災害、本市周辺に複数存在する活断層に起因する地震などへの備えの重要性が高まっています。一方、人口減少や高齢化により、消防団や自主防災組織など、地域防災力を支える担い手が不足し、避難支援を必要とする人の増加も見込まれます。また、道路、河川、上下水道などの社会基盤の老朽化により、災害時の機能確保も課題となっています。

災害からいのちと暮らしを守るためには、市民一人ひとりが自ら備える「自助」、地域で支え合う「共助」、行政や関係機関による「公助」を一体的に高める必要があります。

＜関連施策＞　ハード・ソフト両面から災害に備え、地域、事業者、行政が連携していのちを守る防災・減災の力を高めます。

- **１－１ 市民協働**
  ①多様な主体が参画する地域づくりの推進
- **１－１ 市民協働**
  ②持続可能な地域コミュニティの形成
- **１－３ 男女共同参画**
  ②あらゆる分野における男女共同参画と女性活躍の推進
- **５－１ 道路**
  ②暮らしと地域を支える道路ネットワークの形成
- **５－２ 河川**
  ①由良川流域全体で取り組む河川整備の推進
- **５－２ 河川**
  ②由良川流域全体で取り組む内水対策の推進
- **５－３ 上下水道**
  ②災害に強い上下水道基盤の整備
- **６－１ 防災・消防**
  ①災害に強い地域防災体制の構築
- **６－１ 防災・消防**
  ②いのちと暮らしを守る消防・救急体制の充実
- **６－４ 地域福祉**
  ①互いに支え合い安心して暮らせる地域共生社会の推進
- **６－５ 高齢者福祉**
  ②高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らせる地域包括ケアの推進
- **６－６ 障害者福祉**
  ①障害のある人の地域生活の支援と自立の促進

重点課題への対応

防災力を強化する

課題

子育ての孤立と、仕事や地域活動と自己実現との両立負担の増大

少子化や核家族化、地域のつながりの希薄化が進む中、こども同士や子育て家庭が地域で交流する機会が減少し、不安や孤立を抱える家庭があります。また、保護者には仕事や家事、育児、地域活動などの両立に負担を感じている人もいます。さらに、共働き世帯や多様な働き方が増える中で、家庭の状況やこどもの発達、保育・教育へのニーズも多様化しており、行政サービスだけで、こどもの健やかな成長や保護者の負担を支えることは難しくなってきています。

こどもと保護者の双方が自分らしく安心して暮らせるよう、妊娠・出産期からの相談支援、保育・教育、居場所づくり、地域での交流や見守りをつなぎ、家庭、園、学校、地域、事業者、行政が一体となって支える必要があります。

＜関連施策＞　こどもと保護者の双方が、笑顔で自分らしく育っていける環境づくりをまち全体でバックアップします。

１－３ 男女共同参画
②あらゆる分野における男女共同参画と女性活躍の推進

３－１ 妊娠・出産・子育て
①切れ目のない妊娠・出産・子育て相談支援の推進

３－１ 妊娠・出産・子育て
②課題を抱えるこどもと家庭の状況に応じた支援の推進

３－１ 妊娠・出産・子育て
③地域をはじめ、さまざまな関係者が共にこどもと子育て家庭を支える環境づくり

３－２ 保育・幼児教育
①多様なニーズに対応した保育・幼児教育体制の充実

３－２ 保育・幼児教育
②こどもの育ちを支える質の高い保育・幼児教育の推進

３－３ 学校教育
①こども一人ひとりの可能性を伸ばす学びの充実

３－３ 学校教育
②家庭・学校・地域が連携した教育環境づくり

３－４ 社会教育
①公民館や図書館などの社会教育施設の多機能化と生涯学習活動の推進

３－４ 社会教育
②こどもの居場所づくりの充実と多様な学びの提供

重点課題への対応

**地域とともに
こども・子育てを
応援する**

課題　複合化・複雑化する課題を抱える人への対応

高齢化の進行や家族形態、価値観の多様化により、介護、障害、生活困窮、ひきこもり、孤独・孤立など、複数の課題を抱える人や世帯の増加が見込まれます。一方、地域のつながりの希薄化や、見守り・生活支援を担う医療・介護・福祉人材や地域の支援者の不足により、支援が必要な人を早期に把握し、適切な相談先につなぐ機能が低下するだけでなく、受け皿となるサービスの提供そのものが困難になり「つなぎたくてもつなげない」事態を招くおそれがあります。

制度や分野ごとの支援だけでは解決が難しい課題に対応するため、身近な地域での気づき、見守り、居場所づくりと、医療、福祉、介護、住宅、移動などの専門的な相談・生活支援をつなぎ、地域、関係機関、事業者、行政が連携して支える体制を充実させる必要があります。

＜関連施策＞　誰もが住み慣れた地域で最期まで自分らしく暮らせるよう、支え合いのまちづくりを共創します。

１－４ 多文化共生
①外国人住民と地域社会の相互理解と協働の促進

５－４ 公共交通
①持続可能で利便性の高い公共交通ネットワークの形成

５－５ 居住基盤
②公営住宅・公園など誰もが暮らしやすい住環境の整備

６－３ 医療
②地域で安心して暮らし続けるための医療・介護・福祉連携の強化

６－４ 地域福祉
①互いに支え合い安心して暮らせる地域共生社会の推進

６－４ 地域福祉
②複雑化・複合化する困りごとに対応する包括的な相談支援の充実

６－４ 地域福祉
③地域ぐるみの見守りと生活支援の充実

６－５ 高齢者福祉
②高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らせる地域包括ケアの推進

６－６ 障害者福祉
①障害のある人の地域生活の支援と自立の促進

重点課題への対応

地域の見守り・相談・生活支援を充実させる

4 評価体制

まちづくり構想の成果を確認・検証し、取組の改善につなげます。

（1）まちづくり構想を推進・評価していく体制
（2）毎年度のPDCAサイクル

（１）まちづくり構想を推進・評価していく体制

・本構想は、無作為抽出で選ばれた市民約１００人が参加した「福知山市２０４０年市民会議」からスタートしました。２０２５（令和７）年度に開催した市民会議では、「地域の未来予測」をもとに、これからの暮らしに起こり得るさまざまな課題を共有し、その対応の方向性について議論しました。

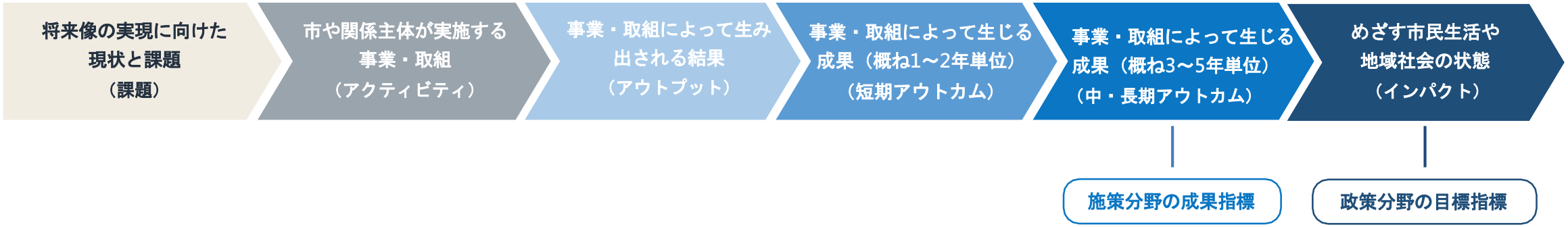
・２０４０年を見据えたまちづくりの方向性を示す本構想を推進するためには、市民、地域、事業者、関係機関、市が連携・協働して取り組むこと、そして「計画が着実に進み、成果につながっているか」を定期的に確認し続けることが重要です。

・市が取り組む施策については、庁内の各部署において検証を行うとともに、市民アンケートなどを通じて、市民の生活実感や満足度の変化を確認していきます。その状況や成果は市民と広く共有し、多様な意見を今後の取組に生かしながら、市民の幸せの実現に努めていきます。

・計画の進捗を確認する際には、「地域の課題」に対して「どのような事業・取組」を行い、結果として「市民生活や地域がどう良くなるか」という道筋を整理します。そのうえで、最終的にめざすまちの姿を明確にし、その達成度を測るための指標を定めます。

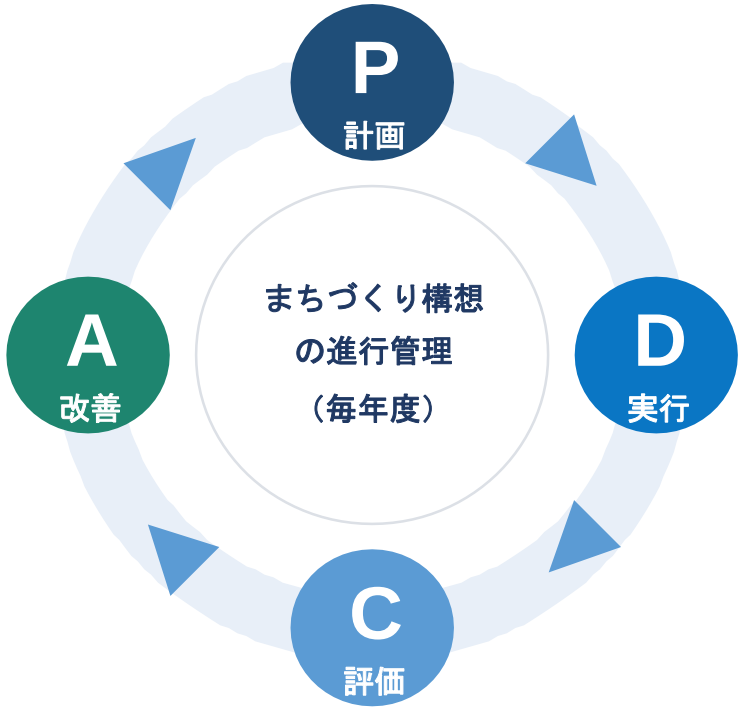
・毎年度、これらの指標をもとに成果を確認・検証し、取組の改善につなげるサイクルを繰り返すことで、本構想がめざす将来像の実現へと着実に近づけていきます。

施策の道筋



（２）毎年度のＰＤＣＡサイクル

施策の道筋に沿って定めた指標をもとに、毎年度、計画・実行・評価・改善のサイクルを回します。評価の結果は事業・取組の見直しと次年度の予算編成に反映し、将来像の実現に近づけていきます。



P　計画

構想策定時に指標を定め、各年度に取り組む内容を計画します。

D　実行

予算に基づき、市の事業・取組と、みんなで取り組むことを進めます。

C　評価

市民アンケートや指標をもとに毎年度進捗と成果を評価します。

A　改善

評価の結果を事業・取組の見直しに反映し、次年度の予算編成につなげます。